

**京都市**  
**青少年・若者に関する意識行動と**  
**思春期保健に関する調査**  
**【結果報告書】**  
**（概要版）**

令和元年 6 月

京都市

## 1 調査概要

### (1) 目的

青少年の意識や生活状況等について現状を把握し、今後の本市の青少年施策の充実に向けた基礎資料とすること。

### (2) 調査設計

調査対象者：市内にお住まいの13歳から30歳までの青少年・若者及び13歳から18歳までの青少年の保護者

抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

調査期間：平成30年9月7日～9月21日

調査方法：郵送による配布・回収

### (3) 実施状況

		調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査		6,500件	1,393件	21.4%
うち13歳から18歳までの青少年の保護者		2,500件	638件	25.5%
(参考)	平成25年調査	5,000件	1,150件	23.0%
	平成21年調査	1,800件	427件	23.7%
	平成20年調査	5,000件	1,061件	21.2%

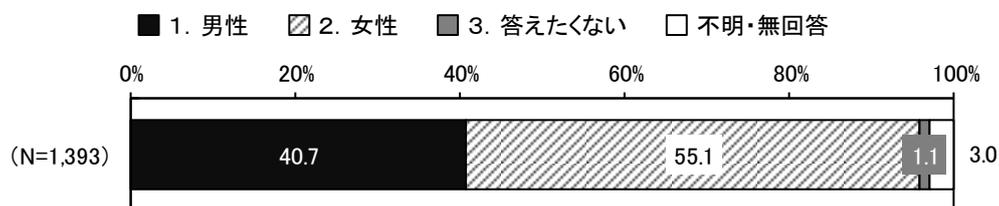
### (4) 報告書の見方

- ・ 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ・ 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- ・ 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ・ 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- ・ 設問によっては、結果を詳細に分析するため、クロス集計表を掲載しています。

## 2 主な調査結果（青少年本人を対象とした調査の結果）

### (1) 回答者について

#### ア 性別（問1）



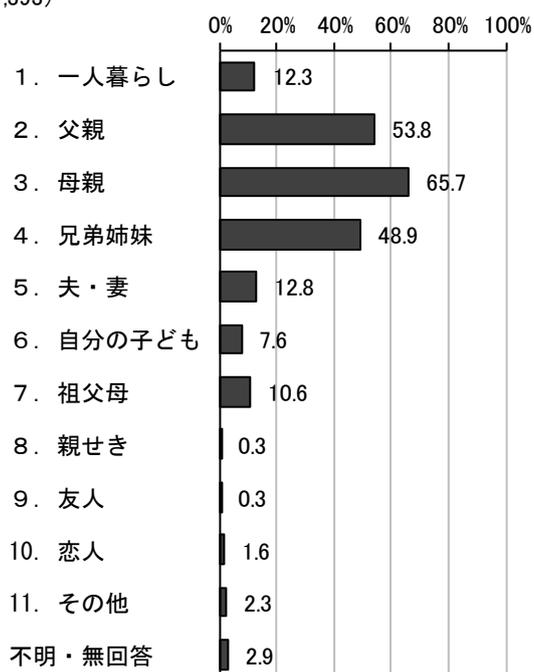
#### イ 年齢（問2）

(N=1,393)



#### ウ 一緒に暮らしている人（問4）

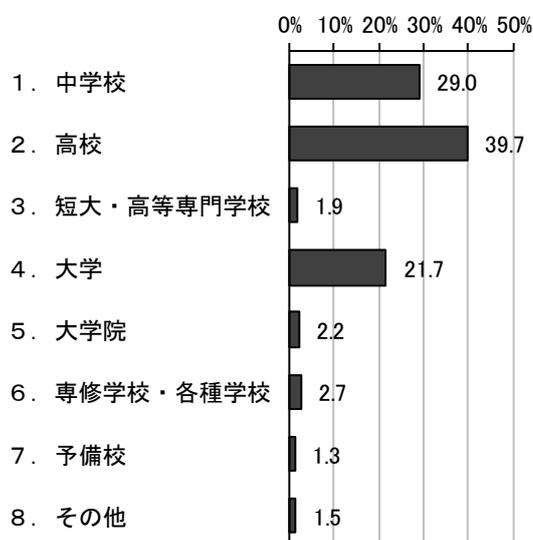
(N=1,393)



## エ 通っている学校（問5(1)）

※ 学生の方のみの回答

(N=780)

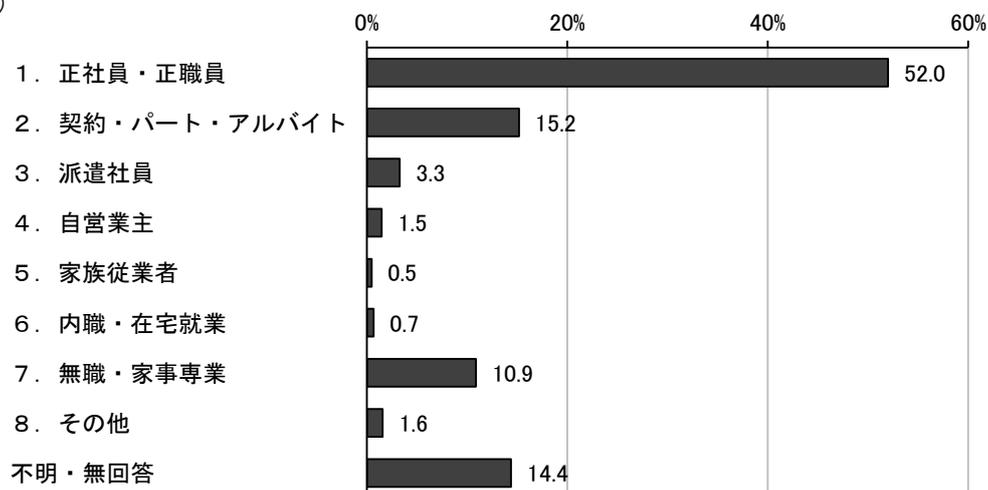


※不明・無回答除く

## オ 職業について（問6）

※ 学生以外の方のみ回答

(N=613)

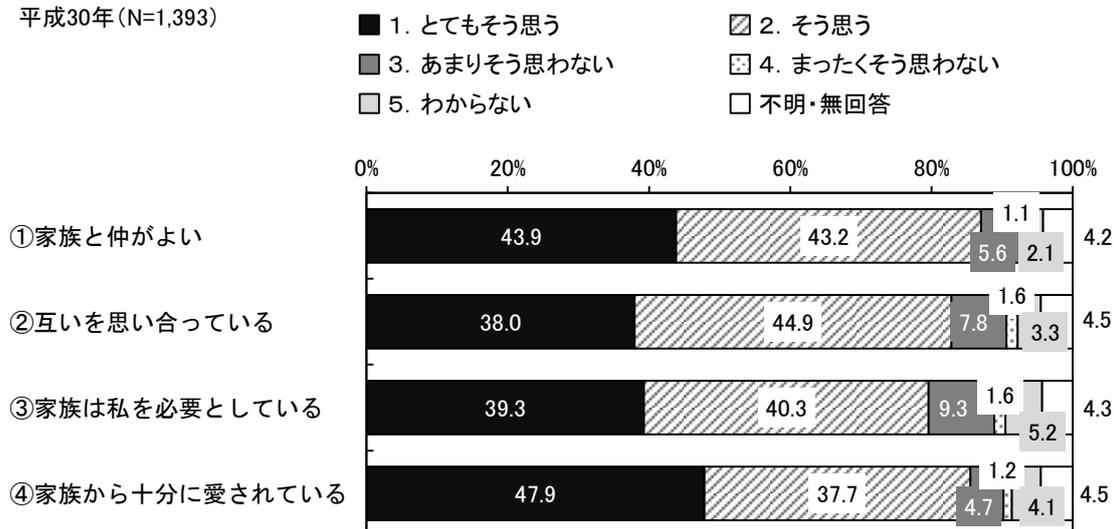


## (2) 身近な人について

### ア 家族との関係について (問7(1))

「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は、「家族と仲がよい」が約9割と最も高く、次いで「家族から十分に愛されている」, 「互いを思い合っている」の順で多く挙げられています。

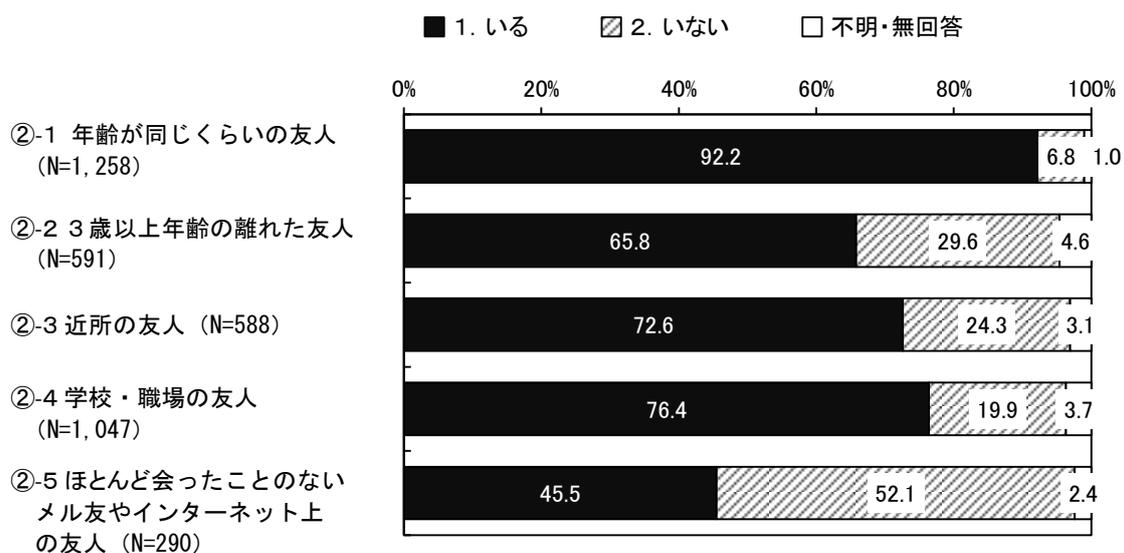
平成30年(N=1,393)



### イ 友人との関係について (問8②)

ふだん付き合っている友人のうち、本音で付き合える友人の有無については、「年齢が同じくらいの友人」の中に「いる」と約9割が回答しており、次いで「学校・職場の友人」, 「近所の友人」, 「3歳以上年齢の離れた友人」の順で多く挙げられています。

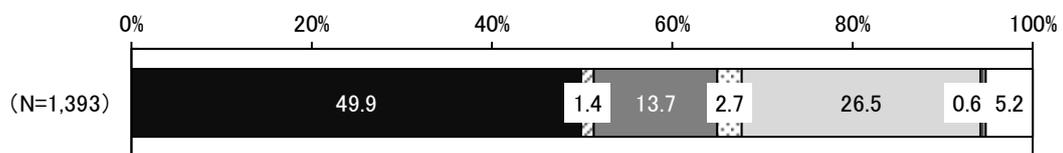
#### 【ふだん付き合っている友人のうち、本音で付き合える友人の有無】



## ウ LGBT等の性的少数者に対する受入れについて（問9）

「自分自身のことでも、身近な人のことであっても受け入れることができる」が最も多く約5割となっています。次いで「わからない」が多く、約3割弱となっています。

- 1. 自身のことでも、身近な人のことであっても受け入れることができる
- ▨ 2. 自身のことは受け入れることができるが、身近な人のことは受け入れることができない
- 3. 自身のことは受け入れることができないが、身近な人のことは受け入れることができる
- ▨ 4. 自身のことでも、身近な人のことであっても受け入れることができない
- 5. わからない
- ▨ 6. 答えたくない
- 不明・無回答

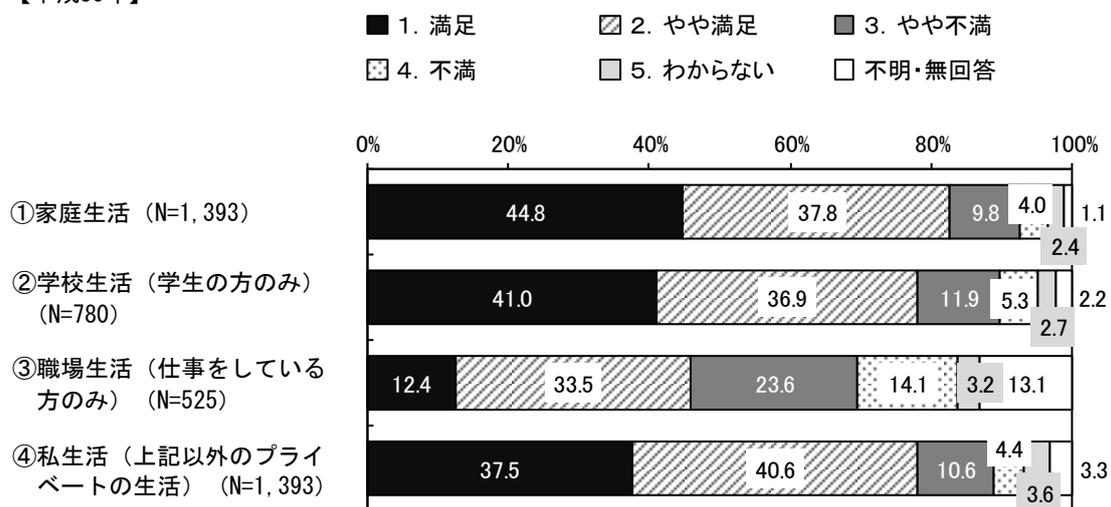


### (3) ふだんの生活について

#### ア 今の生活の満足度（問 10）

満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した方は、「家庭生活」で8割を超え、「学校生活」，「私生活」では，約8割となっているが，「職場生活」では，4割台半ばとなっています。

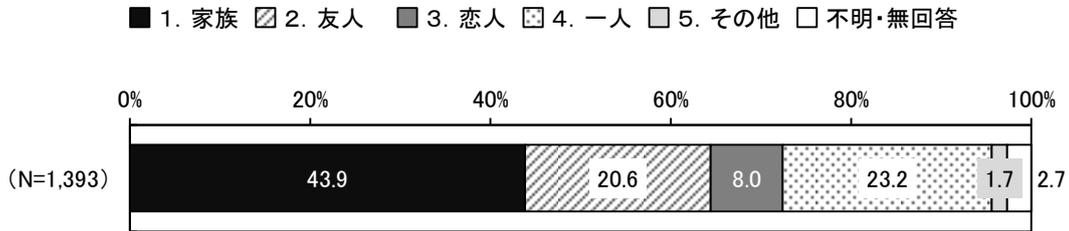
【平成30年】



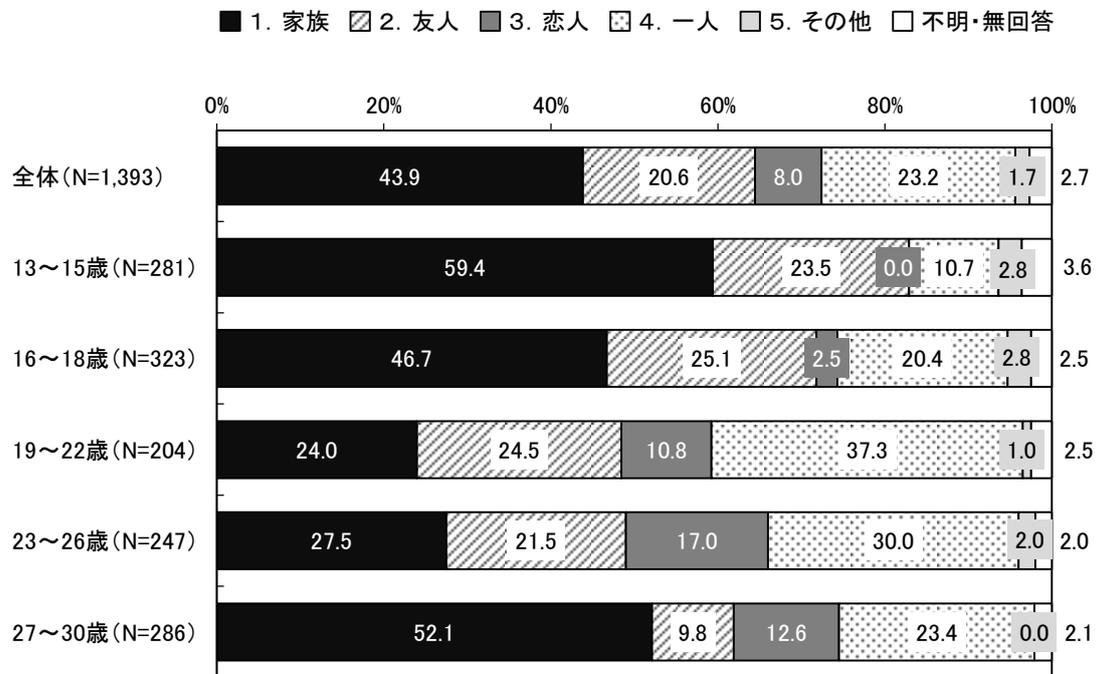
## イ 休日を過ごす相手 (問 12(1))

「家族」が最も多く、次いで「一人」, 「友人」の順で多く挙げられています。

13～15歳, 16～18歳, 27～30歳では「家族」が最も多く, 19～22歳, 23～26歳では「一人」が最も多くなっています。



### 年齢別

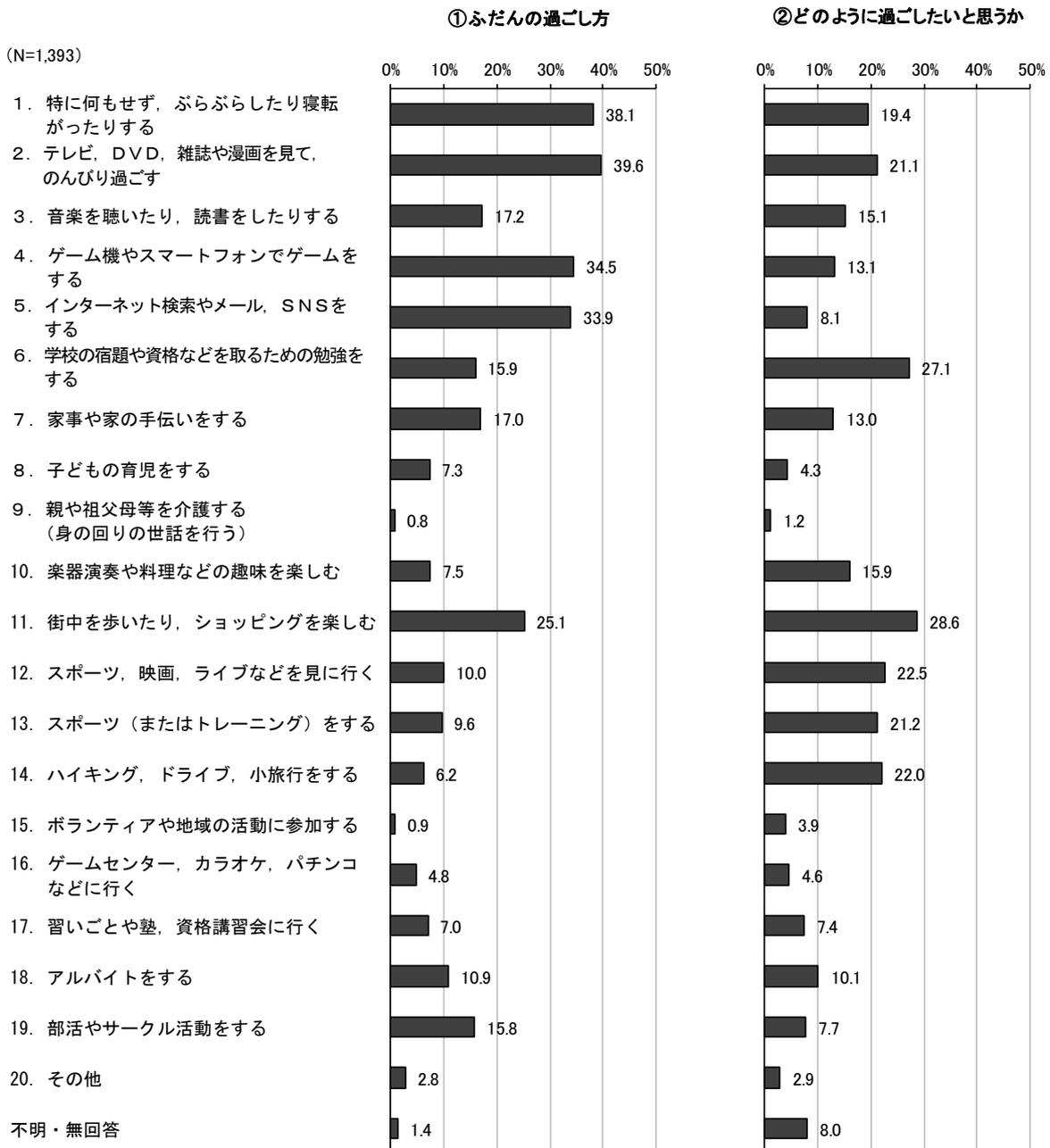


## ウ ふだんの休日の過ごし方（問 12(2)①）

「テレビ，DVD，雑誌や漫画を見て，のんびり過ごす」が約4割と最も高く，次いで「特に何もせず，ぶらぶらしたり寝転がったりする」，「ゲーム機やスマートフォンでゲームをする」，「インターネット検索やメール，SNSをする」の順で多く挙げられています。

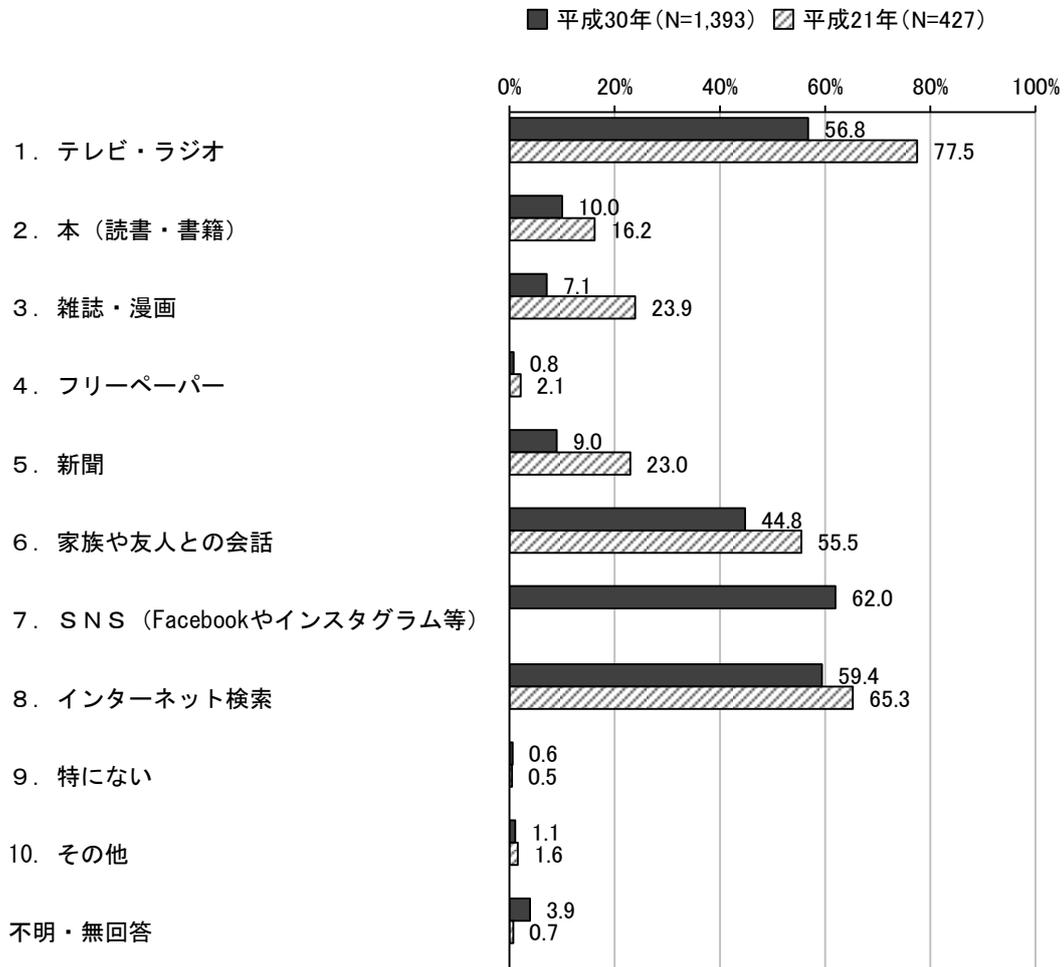
## エ 今後希望する休日の過ごし方（問 12(2)②）

「街中を歩いたり，ショッピングを楽しむ」が約3割と最も多く，次いで「学校の宿題や資格などを取るための勉強をする」，「スポーツ，映画，ライブなどを見に行く」，「ハイキング，ドライブ，小旅行をする」の順で多く挙げられています。



## オ 新しい情報の入手方法（問 13）

「SNS（Facebook やInstagram等）」が6割を超えて最も高く、次いで「インターネット検索」、「テレビ・ラジオ」の順で多く挙げられています。



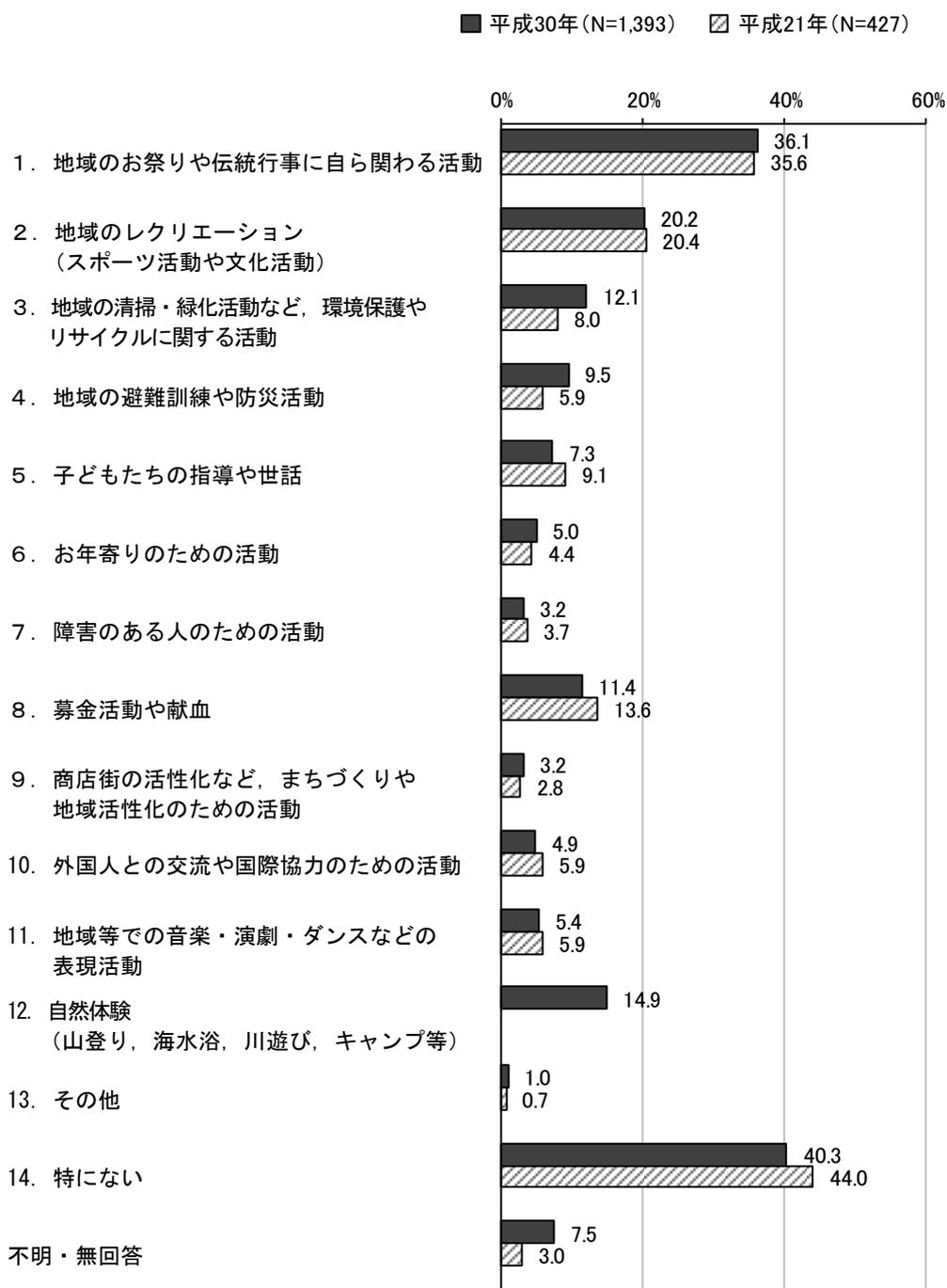
※「7. SNS（Facebook やInstagram等）」は平成30年のみの選択肢

※平成21年では、「8. インターネット検索」は「インターネット（パソコン・携帯電話など）」

#### (4) 地域活動への参加について

##### ア 活動への参加体験（問 14(1)）

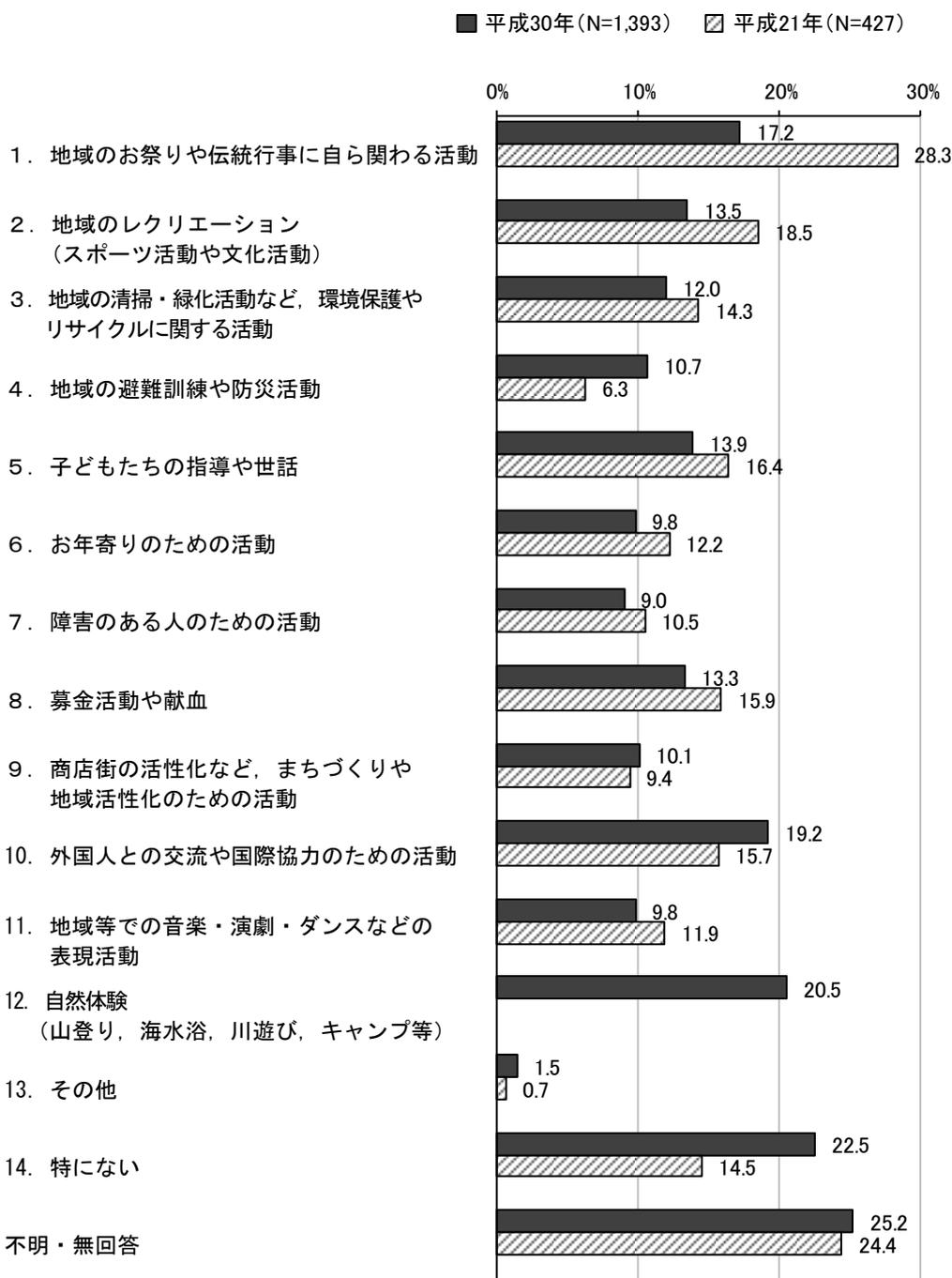
この3年間で、「特にない」が4割と最も高く、次いで「地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動」，「地域のレクリエーション」の順で多く挙げられています。



※「12. 自然体験（山登り，海水浴，川遊び，キャンプ等）」は平成30年のみの選択肢

## イ 今後参加してみたい活動（問 14(2)）

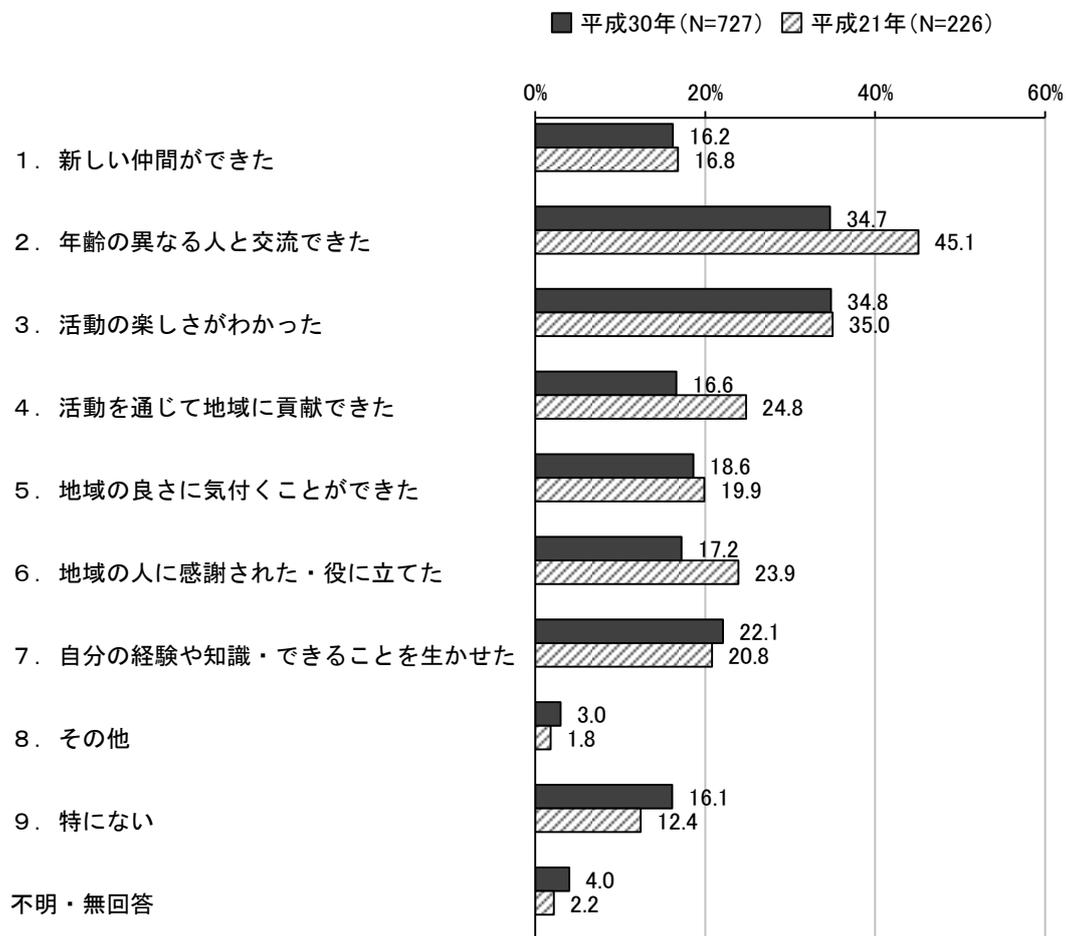
「不明・無回答」，「特にない」以外では，「自然体験」，「外国人との交流や国際協力のための活動」の順で多く挙げられています。



※「12. 自然体験（山登り，海水浴，川遊び，キャンプ等）」は平成30年のみの選択肢

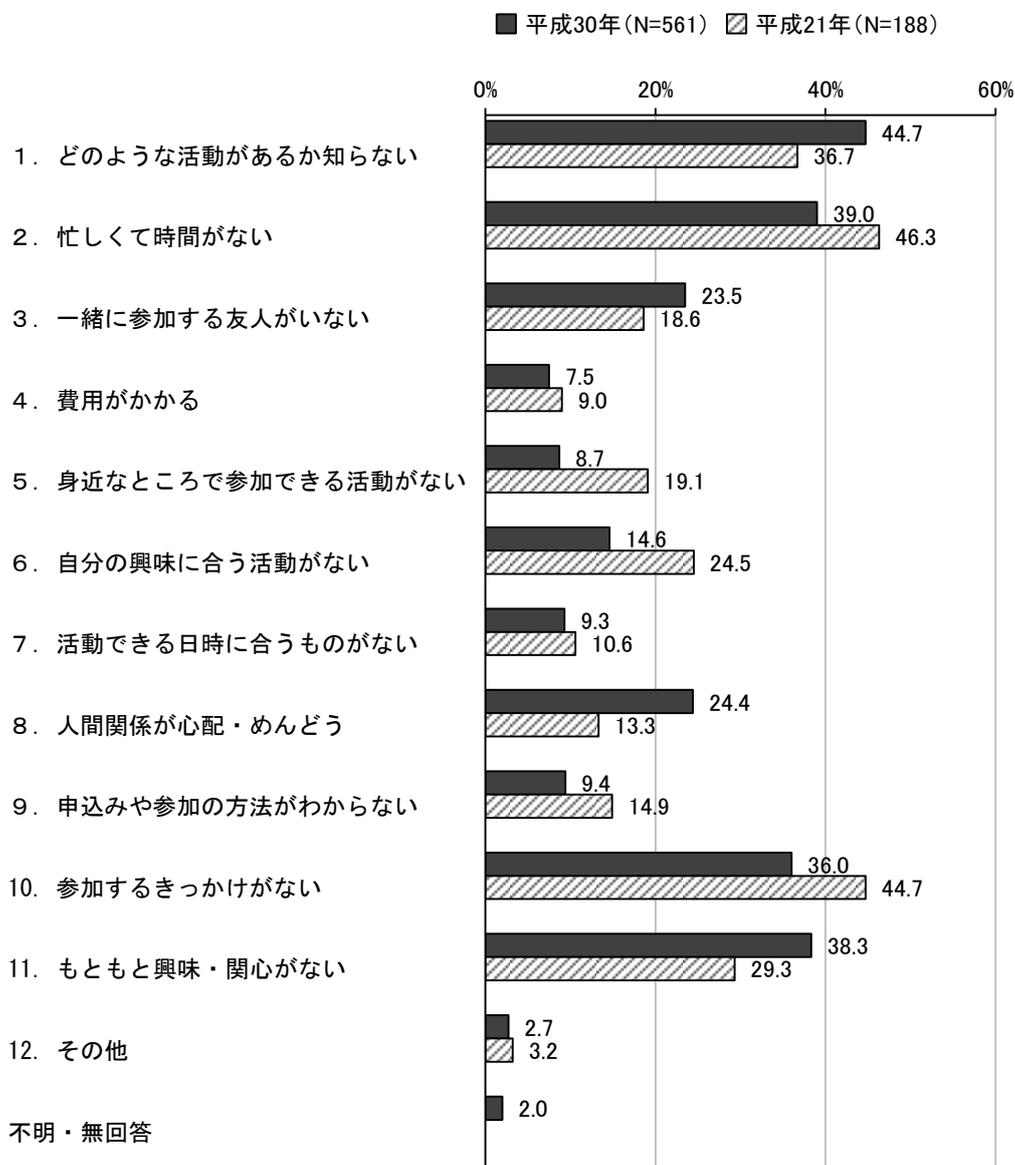
### ウ 活動に参加して良かったこと（問 14(3)）

「活動の楽しさがわかった」が3割台半ばと最も高く、次いで「年齢の異なる人と交流できた」，「自分の経験や知識・できることを生かした」の順で多く挙げられています。



## エ 活動に参加しなかった理由（問 14(5)）

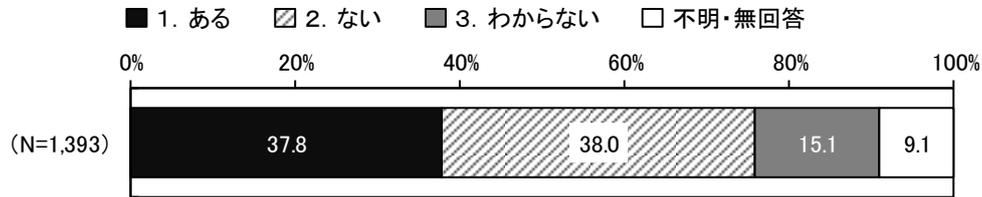
「どのような活動があるか知らない」が4割台半ばと最も高く、次いで「忙しくて時間がない」，「もともと興味・関心がない」の順で多く挙げられています。



## (5) 健康について

### ア 自分の生活リズムに問題があると思うか (問 16)

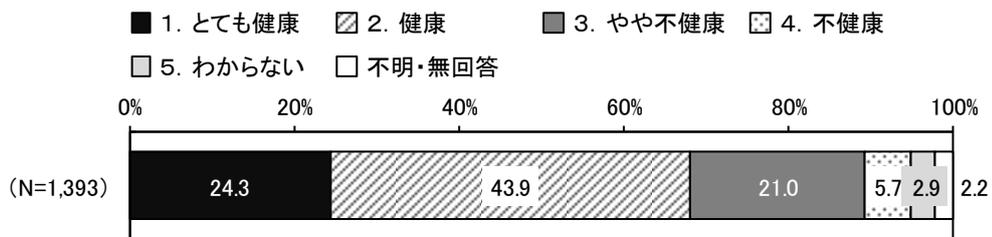
「ある」と「ない」の割合がともに約4割と、ほぼ同程度となっています。



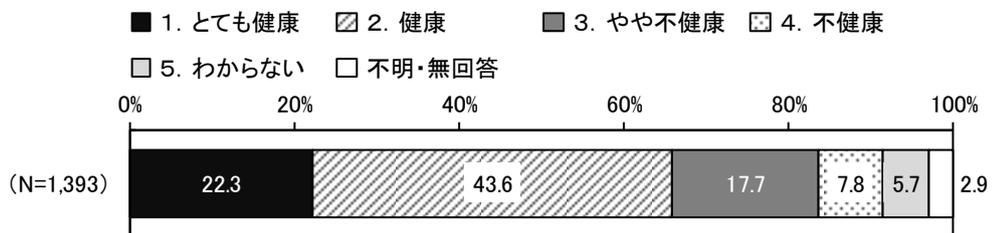
### イ 自分の健康についてどのように思うか (問 17)

自分の健康について、こころとからだともに、健康（「とても健康」と「健康」の合計）が約7割、不健康（「やや不健康」と「不健康」の合計）が約3割程度となっています。

#### ①からだ



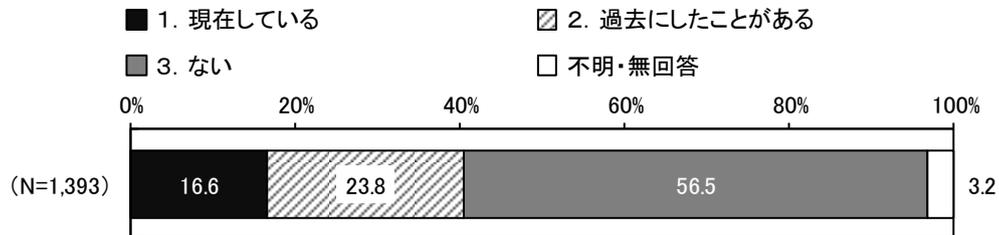
#### ②こころ



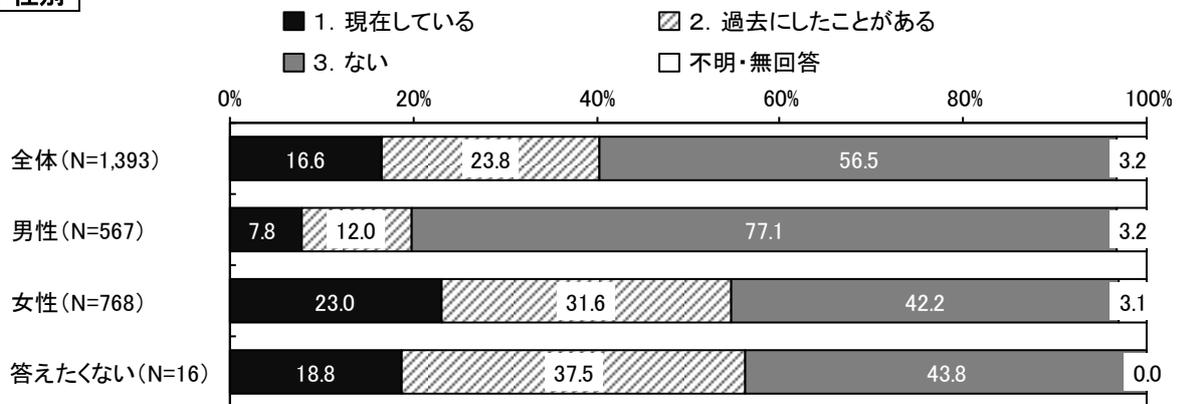
## ウ ダイエットをしたことがあるか（問 21(1)）

したことがある（「過去にしたことがある」と「現在している」の合計）が約4割となっています。

男女別に比較すると、女性では、男性よりも「したことがある」の合計の割合が高くなっています。

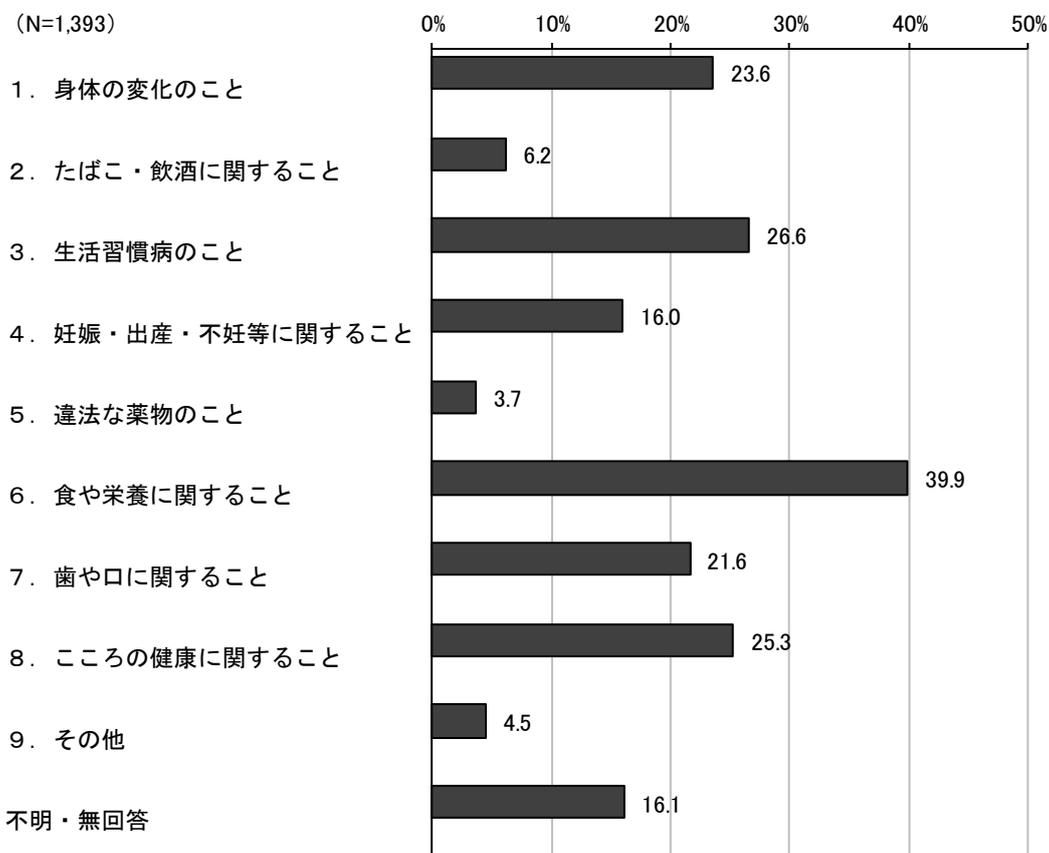


### 性別



## エ 健康について知りたいこと（問 21(3)）

「食や栄養に関すること」が約4割と最も高く、次いで「生活習慣病のこと」、  
「こころの健康に関すること」の順で多く挙げられています。



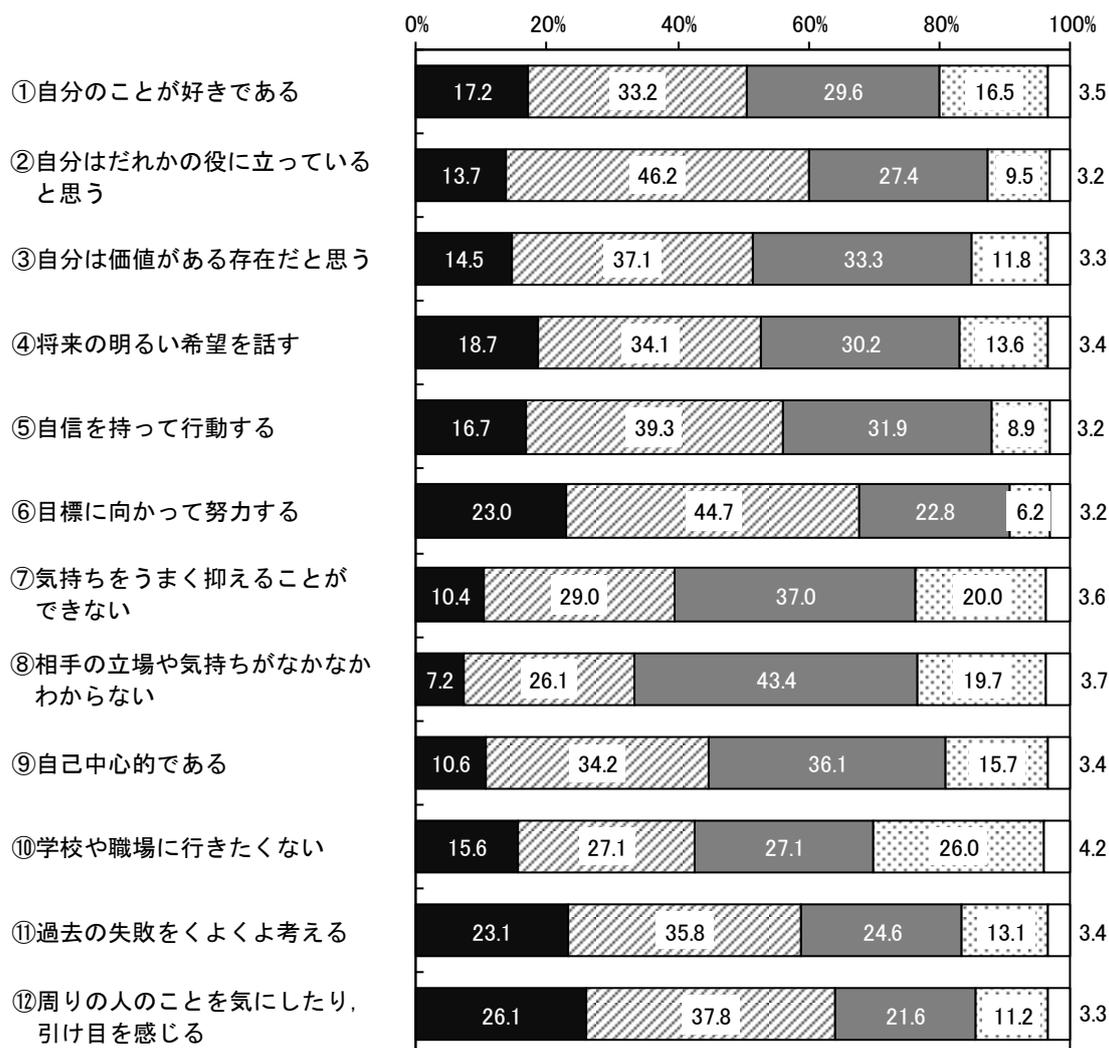
## (6) 気持ちや悩みについて

### ア ふだん感じる気持ち (問 22)

ある(「よくある」と「時々ある」の合計)と回答した方は、「目標に向かって努力する」が約7割と最も高く、次いで「周りの人のことを気にしたり、引け目を感じる」, 「自分はだれかの役に立っていると思う」の順で多く挙げられています。

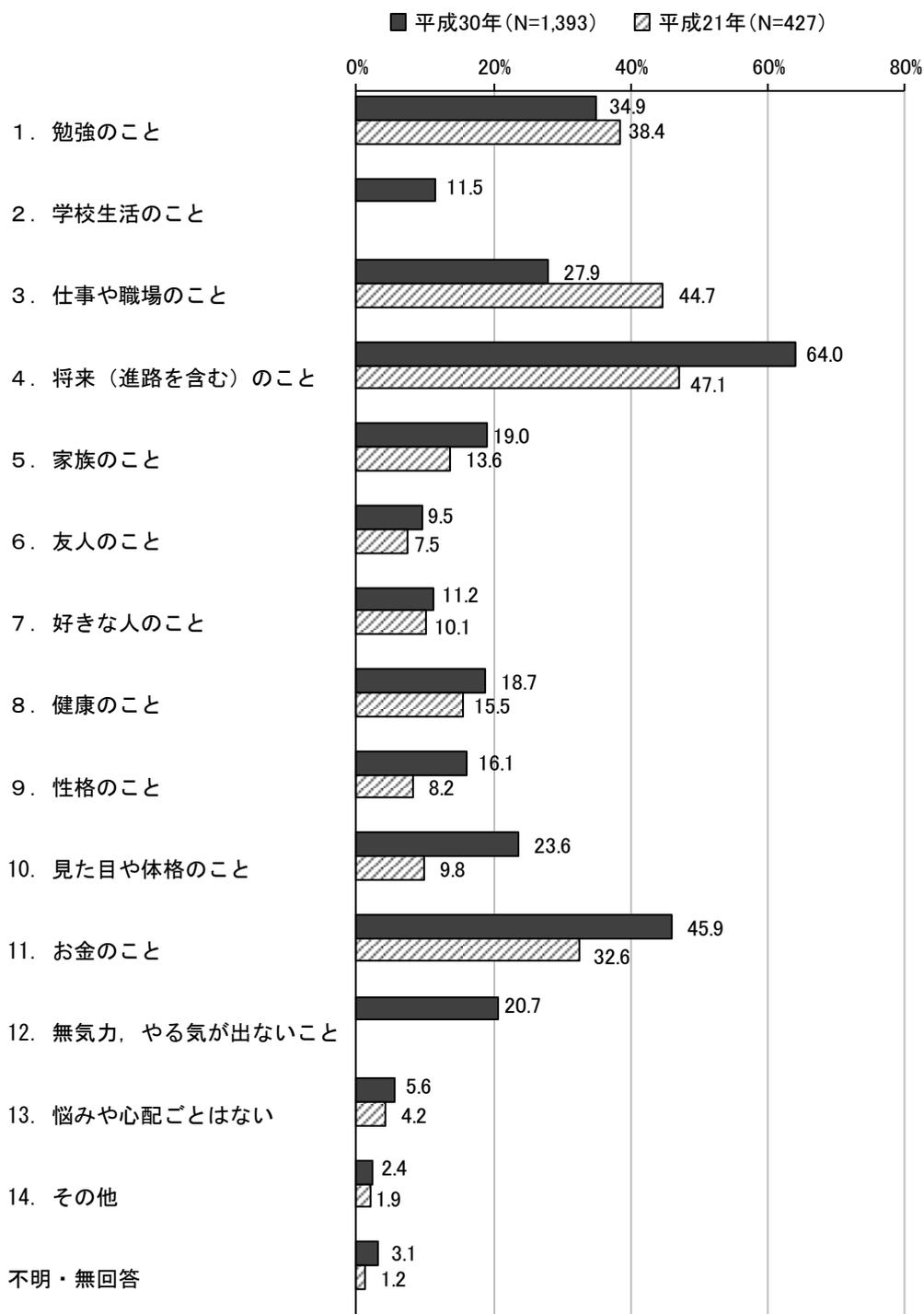
平成30年(N=1,393)

■ 1. よくある    ▨ 2. 時々ある    ■ 3. あまりない  
 ▩ 4. ほとんどない    □ 不明・無回答



## イ 悩みや心配ごと（問 23）

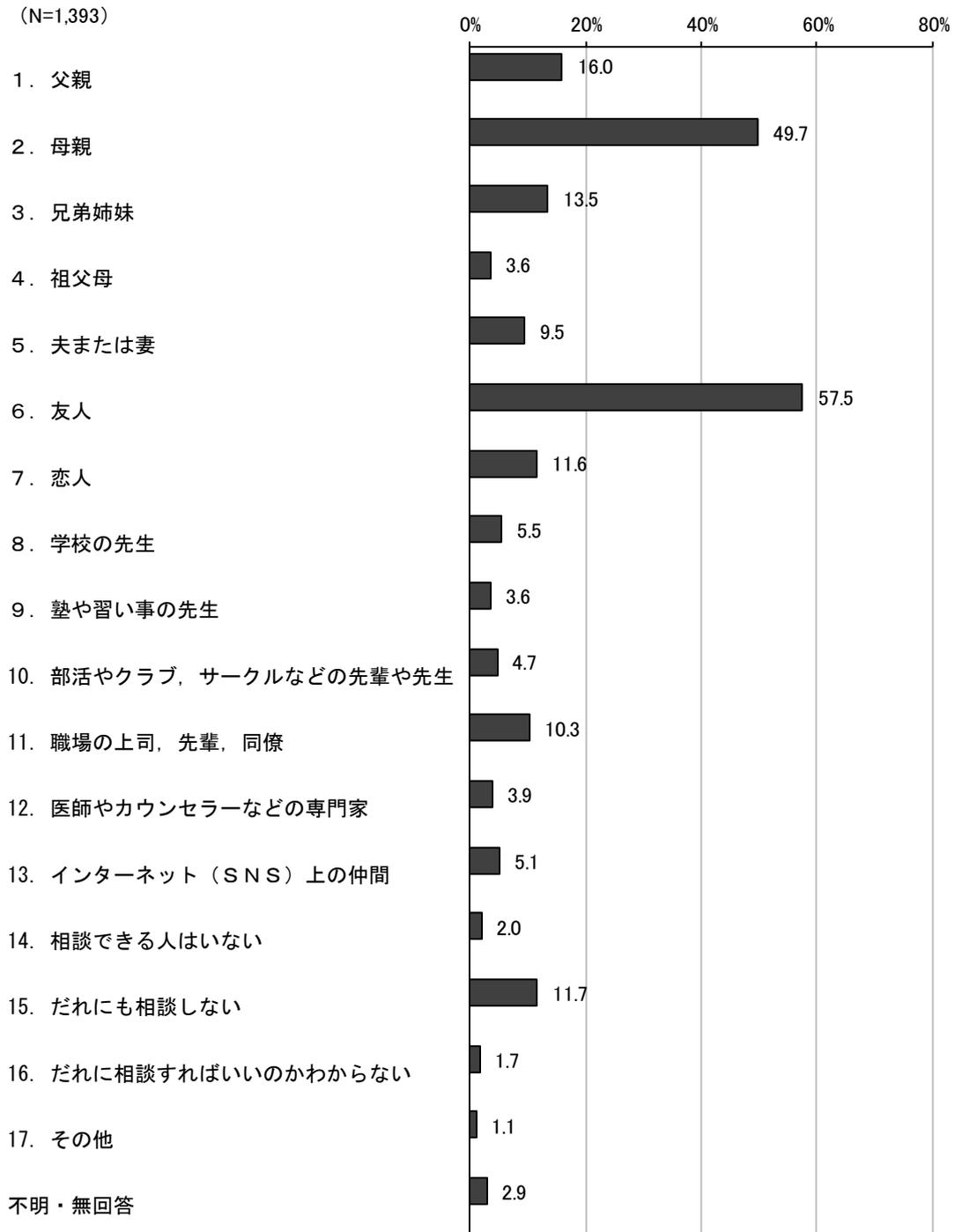
「将来（進路を含む）のこと」が6割台半ばと最も高く、次いで「お金のこと」，「勉強のこと」が多く挙げられています。



※「2. 学校生活のこと」「12. 無気力、やる気が出ないこと」は平成30年のみの選択肢

## ウ 悩みや心配ごとの相談相手（問 24）

「友人」が最も高く、次いで「母親」が多く挙げられています。

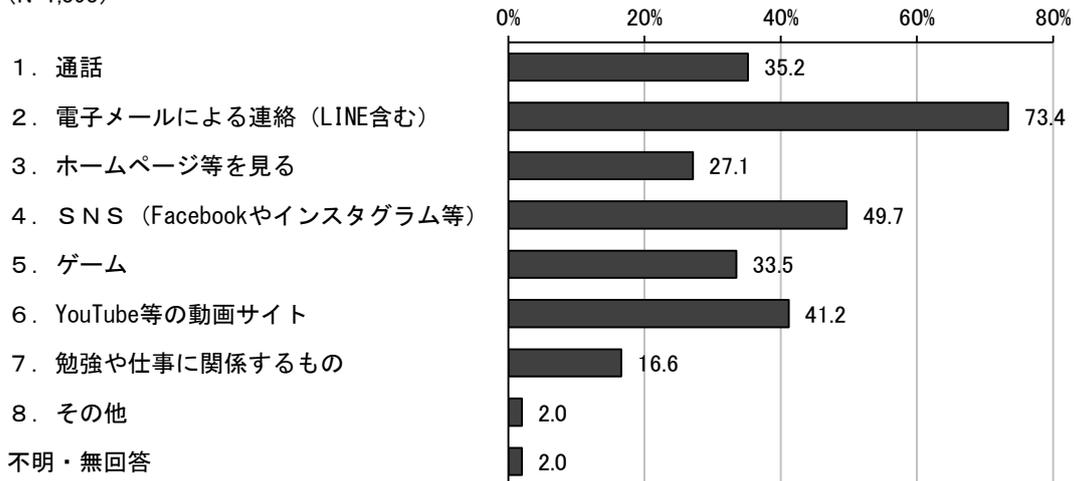


## (7) スマートフォンや携帯電話の利用について

### ア 主な利用目的 (問 26)

「電子メールによる連絡 (LINE 含む)」が7割を超えて最も高く、次いで、「SNS (Facebook やインスタグラム等)」と「YouTube 等の動画サイト」が多く挙げられています。

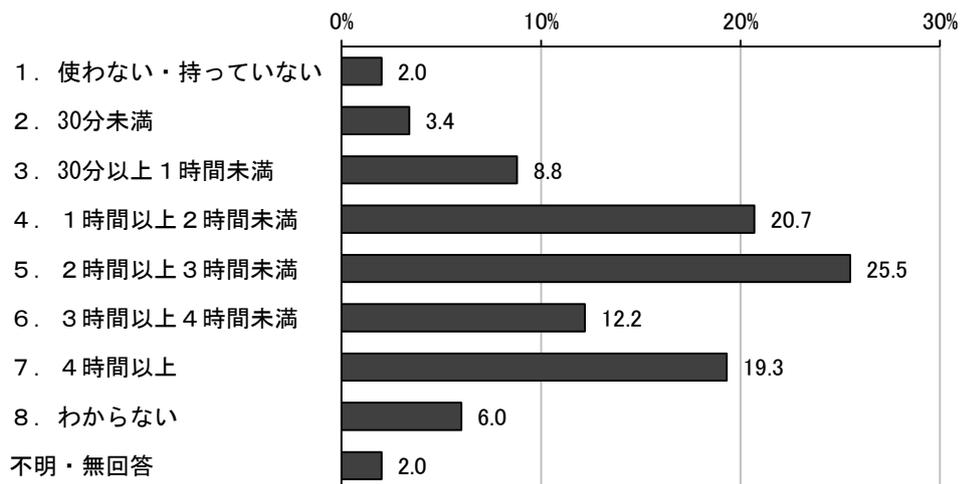
(N=1,393)



### イ 平日1日の利用時間 (問 27)

「2時間以上3時間未満」が最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」, 「4時間以上」が多く挙げられています。

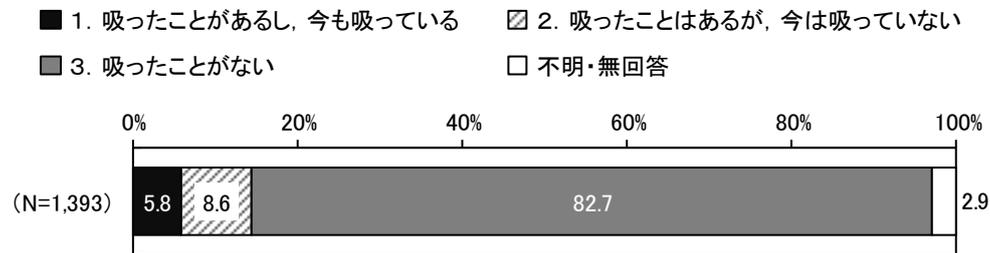
(N=1,393)



(8) たばこについて

喫煙経験について (問 29)

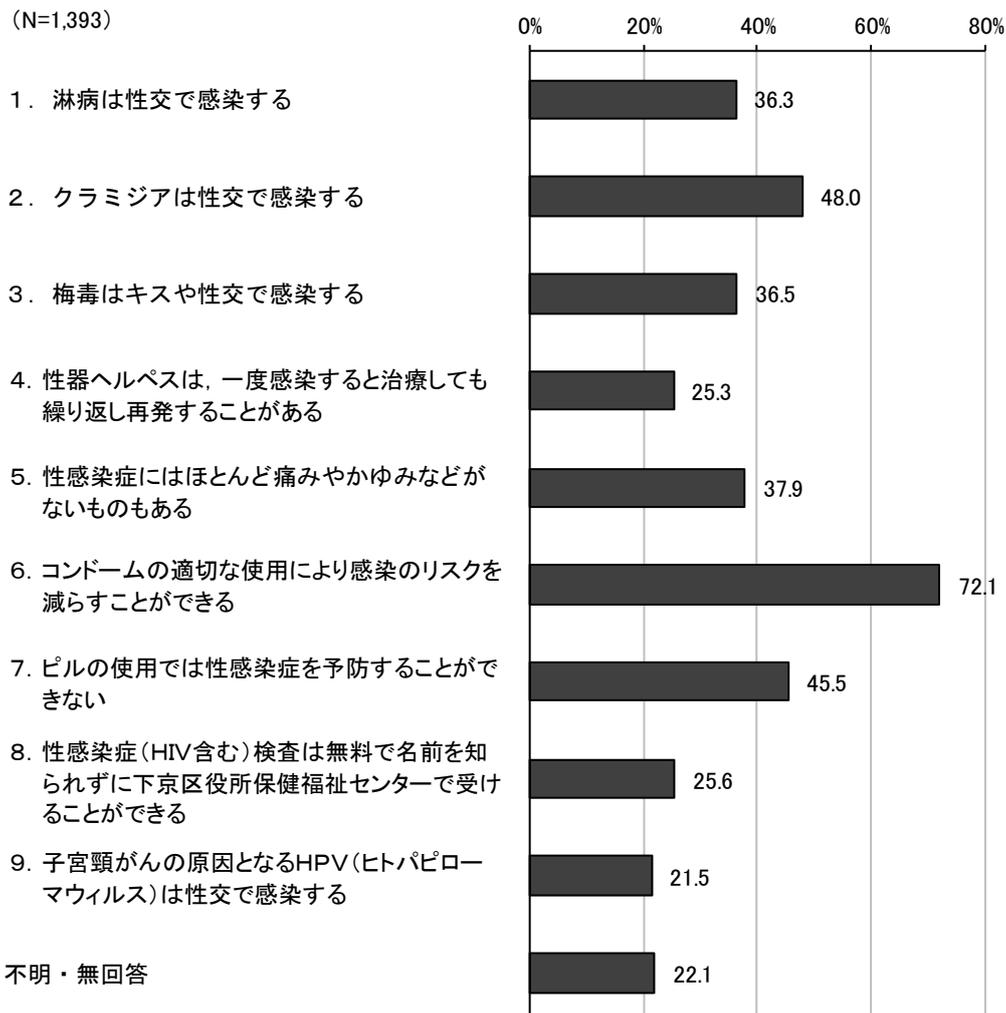
「吸ったことがない」が約8割で最も多くなっています。



(9) 性に関することについて

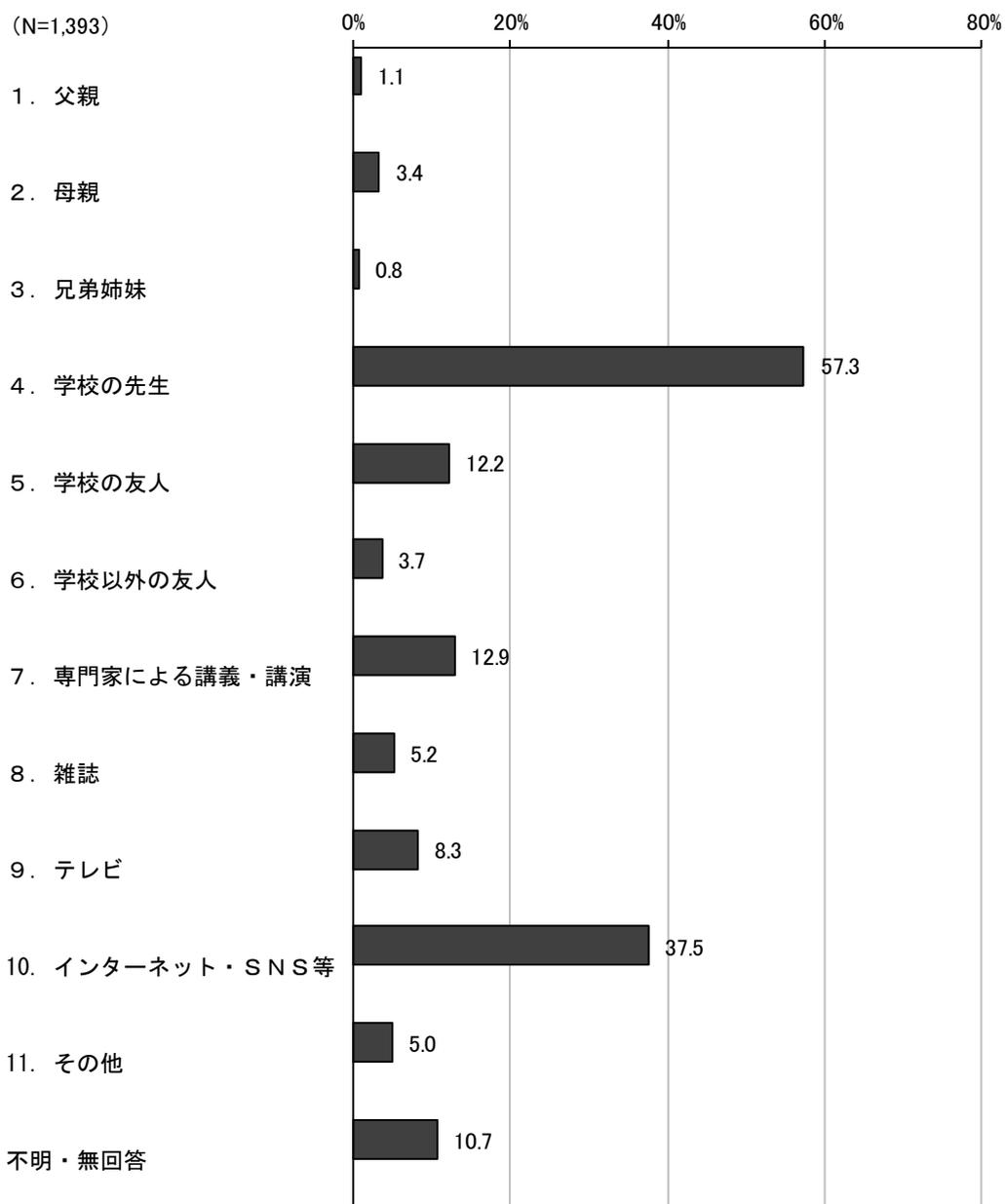
ア 性感染症に関する知識について (問 32)

「コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができる」と回答した割合は、全体の7割で最も高く、次いで「クラミジアは性交で感染する」、「ピルの使用では性感染症を予防することができない」が多く挙げられています。



## イ 性に関する知識の取得経路について (問 34)

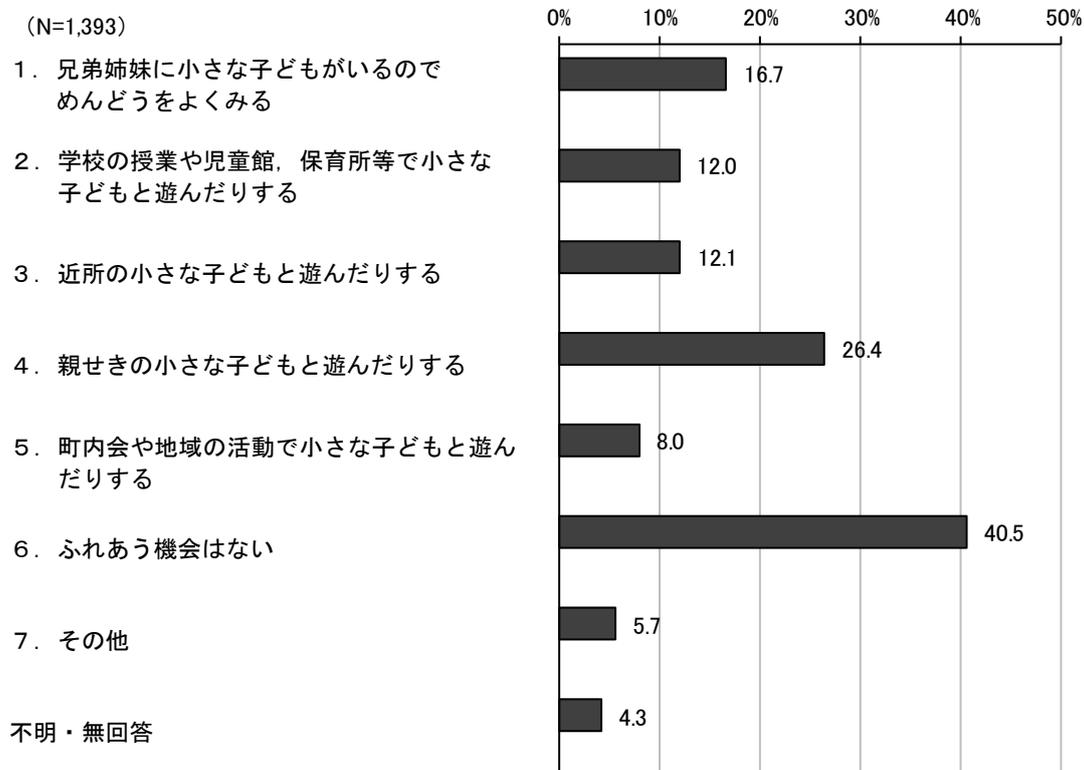
「学校の先生」が約6割で最も高く、次いで「インターネット・SNS等」が多く挙がっています。



## (10) ライフデザインについて

### ア 小さな子どもとふれあう機会 (問 36)

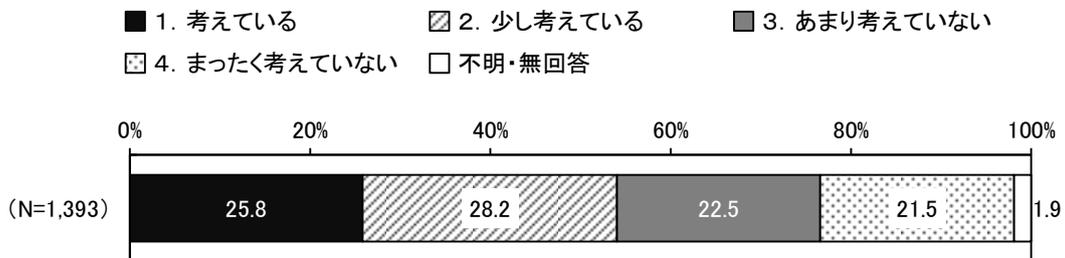
「ふれあう機会はない」が4割と最も高く、次いで「親戚の子どもと遊んだりする」, 「兄弟姉妹に小さな子どもがいるのでめんどうをよくみる」が多く挙げられています。



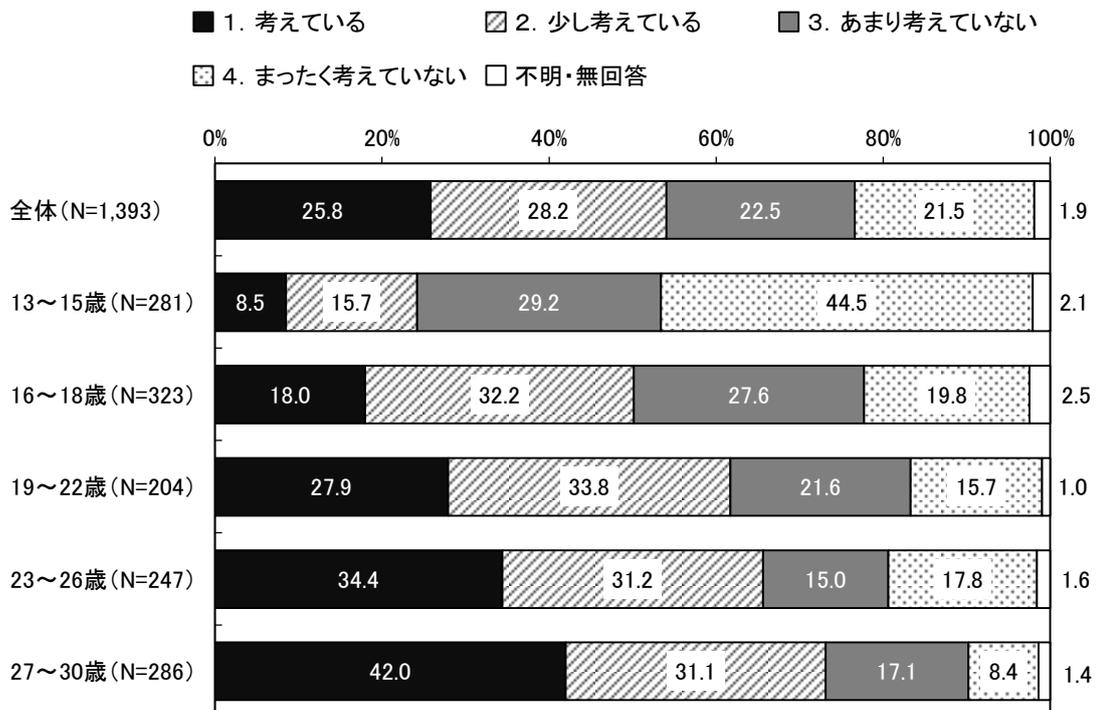
## イ 結婚や出産について将来のライフデザインを考えているか (問 38)

「考えている（「考えている」と「少し考えている」の合計）」が5割，「考えていない（「あまり考えていない」と「まったく考えていない」の合計）」が4割台半ばとなっています。

「考えていない」の割合は，年齢が上がるほど減少する傾向にあります。

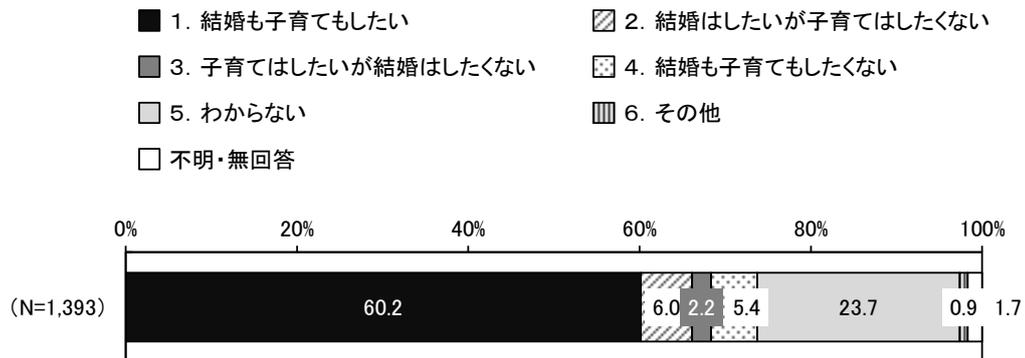


### 年齢別



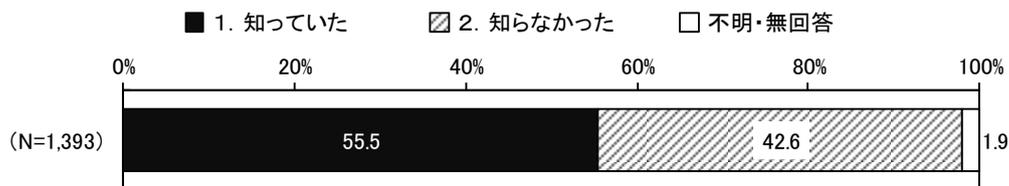
## ウ 将来の結婚や子育てに関する意識（問 39）

「結婚も子育てもしたい」が全体の6割となっています。



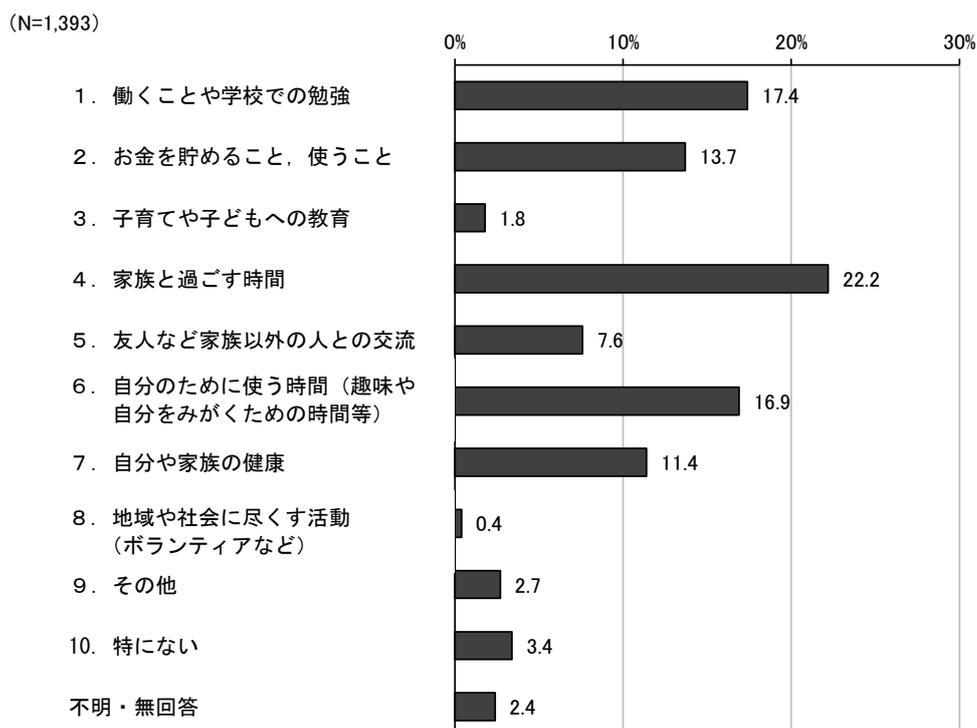
## エ 妊娠に適した時期があることを知っているか（問 40）

「知っていた」が全体の5割台半ばとなっています。



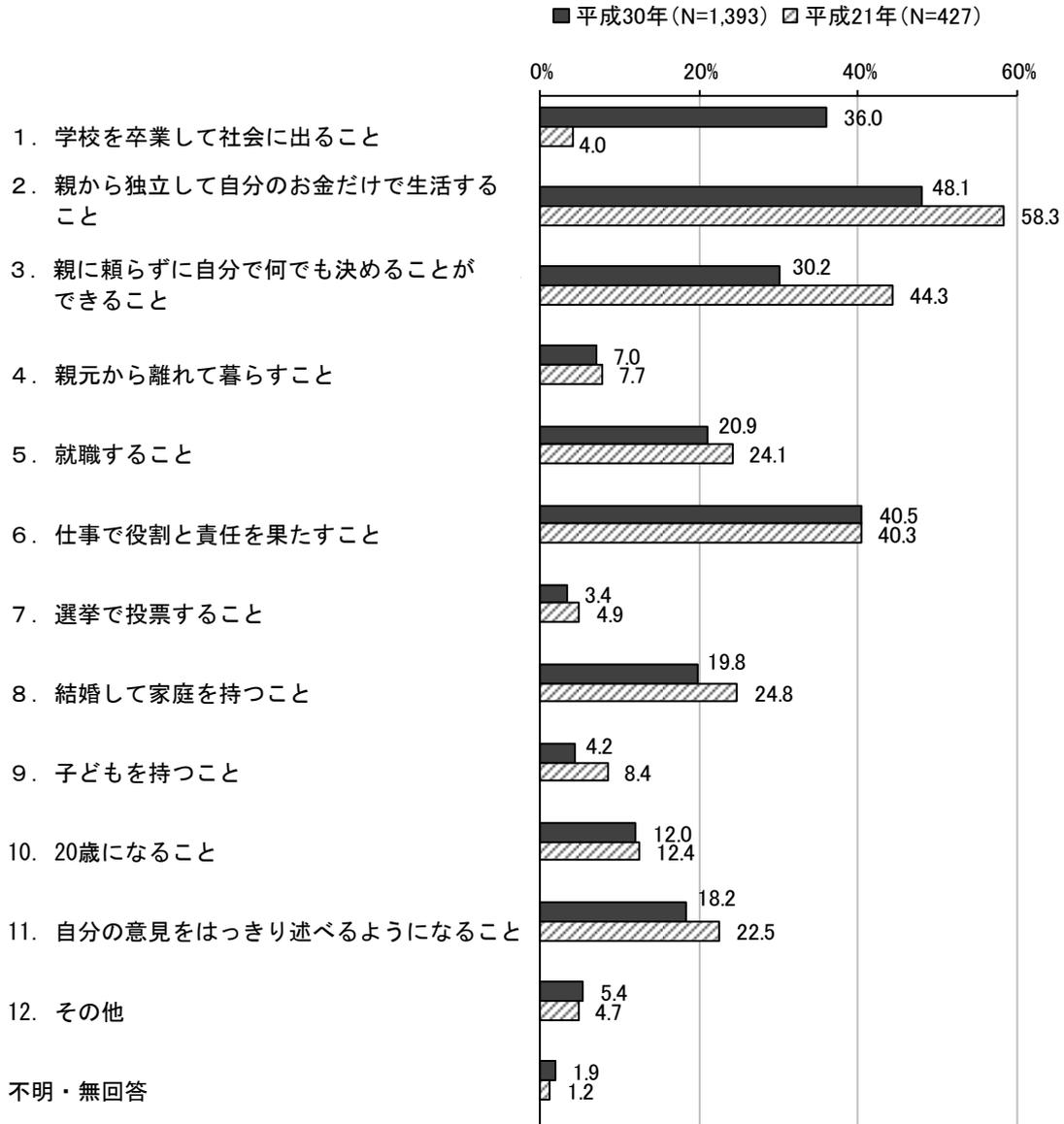
## オ 生活で最も重要なこと（問 41）

「家族と過ごす時間」が最も高く、次いで「働くことや学校での勉強」, 「自分のために使う時間」が多く挙げられています。



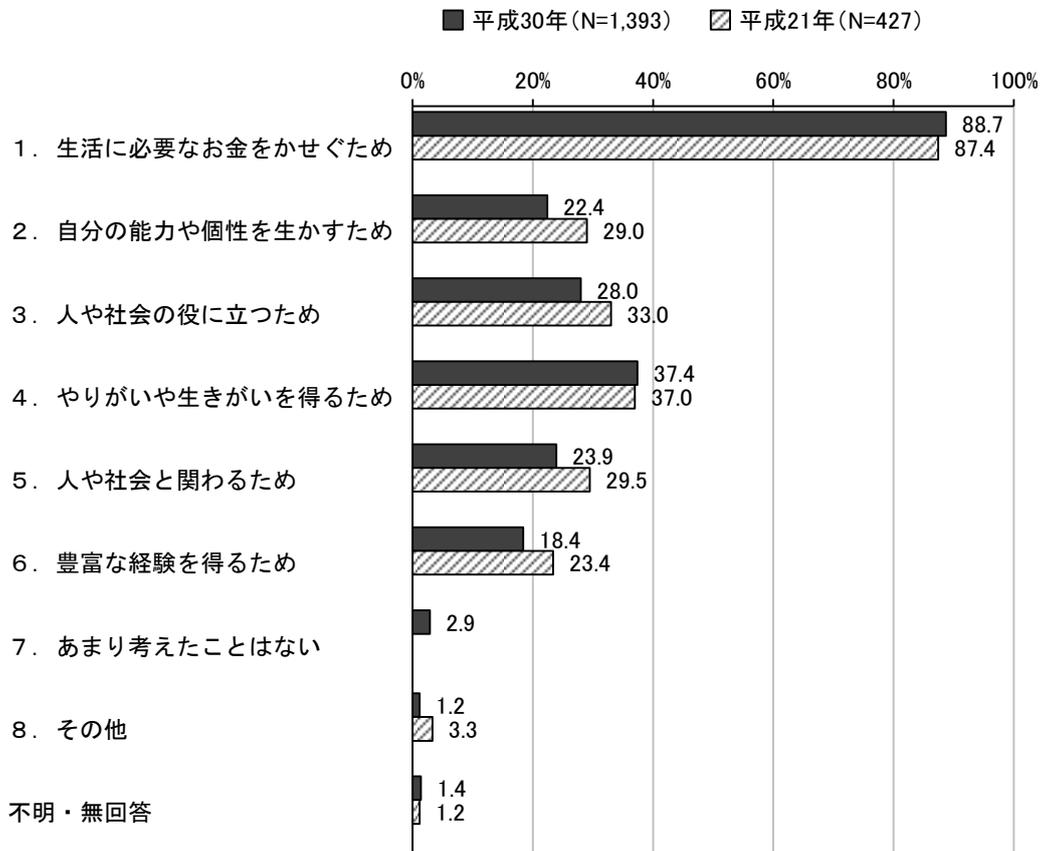
## カ 「大人になること」への考え方（問42）

「親から独立して自分のお金だけで生活すること」が最も高く、次いで「仕事で役割と責任を果たすこと」、「学校を卒業して社会に出ること」が多く挙げられています。



## キ 働く目的（問43）

「生活に必要なお金をかせぐため」の割合が約9割と最も高く、次いで「やりがいや生きがいを得るため」，「人や社会の役に立つため」が多く挙げられています。



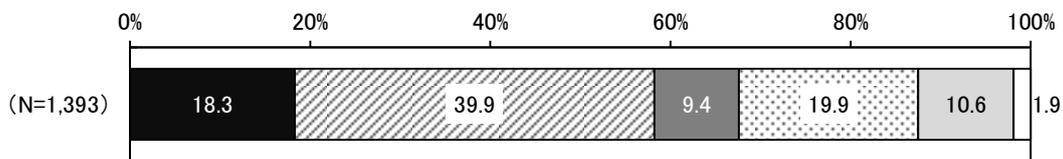
※「7. あまり考えたことはない」は平成30年のみの選択肢

## ク 将来の夢や目標 (問 44)

夢や目標があり、そのために努力している（「とても努力している」と「少し努力している」の合計）との回答は約6割となっています。

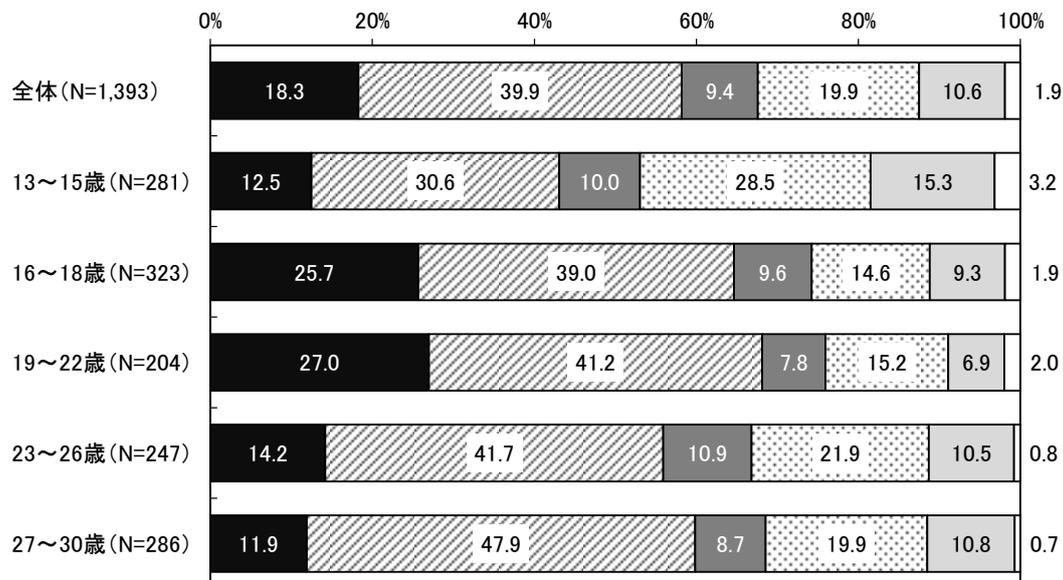
「夢や目標があり、そのためにとても努力している」を年齢別にみると、19～22歳で最も高くなっています。

- 1. 夢や目標があり、そのためにとても努力している
- ▨ 2. 夢や目標があり、そのために少し努力している
- 3. 夢や目標はあるが、そのための努力はしていない
- ▨ 4. 夢や目標はない
- 5. わからない・考えたことがない
- 不明・無回答



### 年齢別

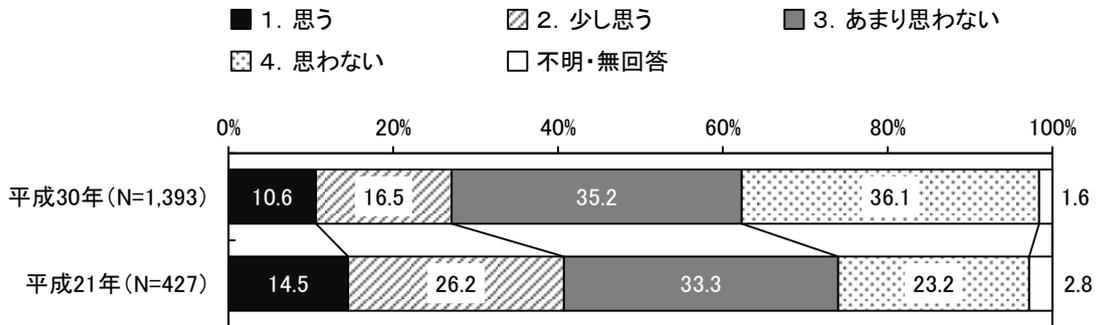
- 1. 夢や目標があり、そのためにとても努力している
- ▨ 2. 夢や目標があり、そのために少し努力している
- 3. 夢や目標はあるが、そのための努力はしていない
- ▨ 4. 夢や目標はない
- 5. わからない・考えたことがない
- 不明・無回答



(11) 市政やまちづくりへの興味・参加について

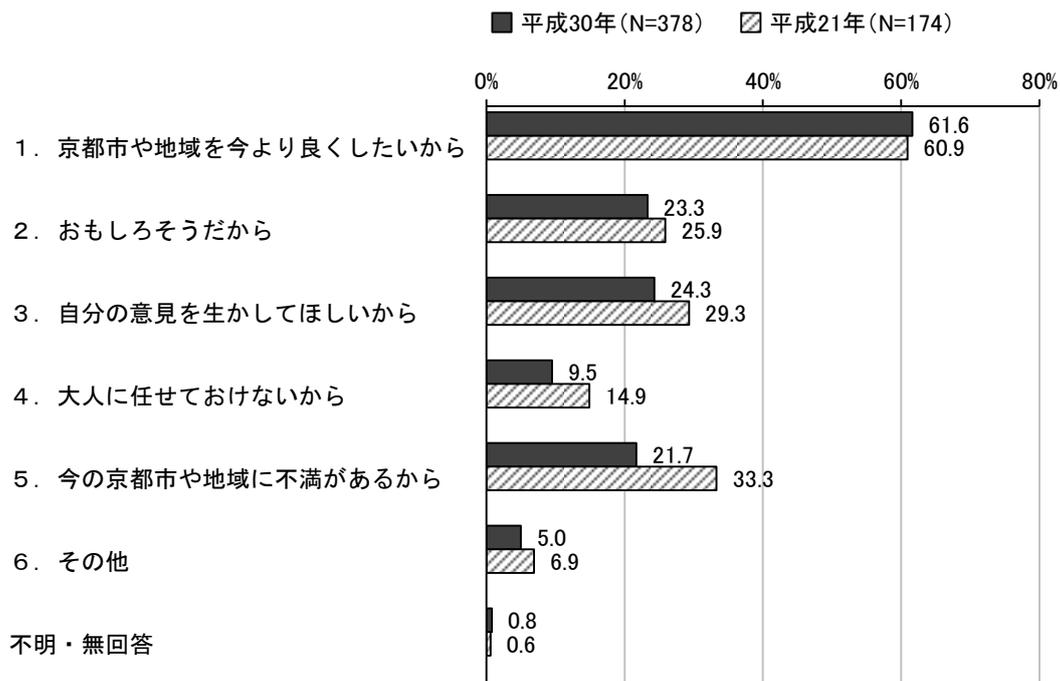
ア 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向（問 46(1)）

消極的な回答が積極的な回答を大きく上回っています。



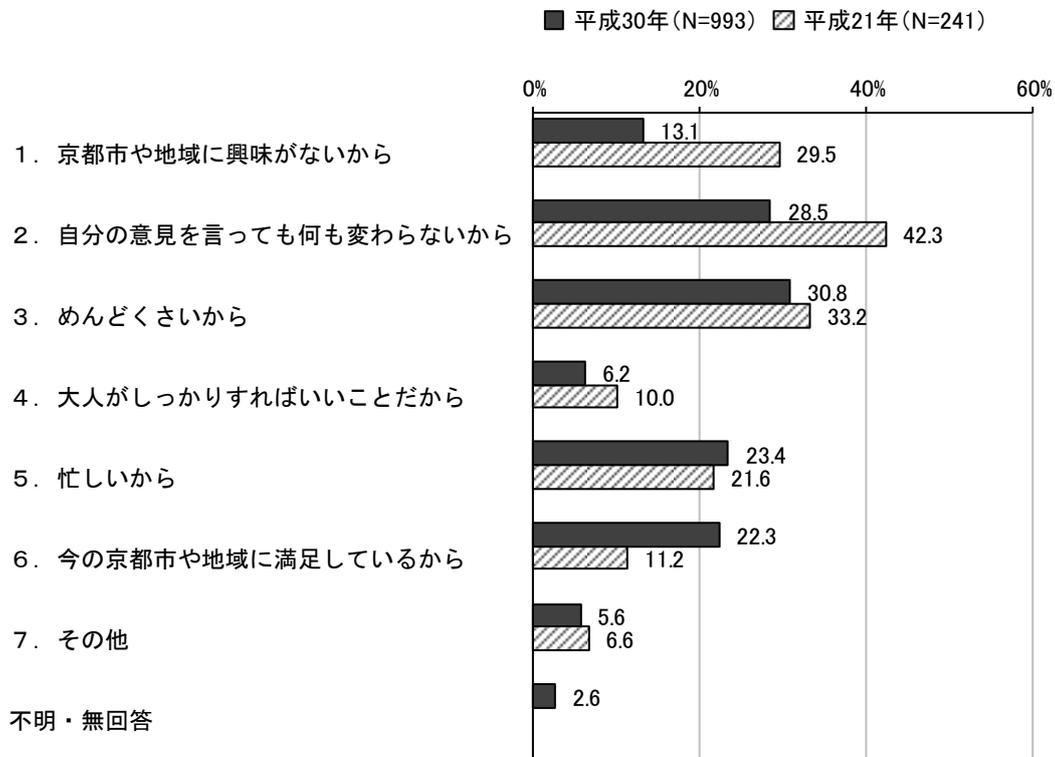
イ 意見表明の機会へ参加したいと思う理由（問 46(2)）

「京都市や地域を今より良くしたいから」が6割と最も高くなっています。



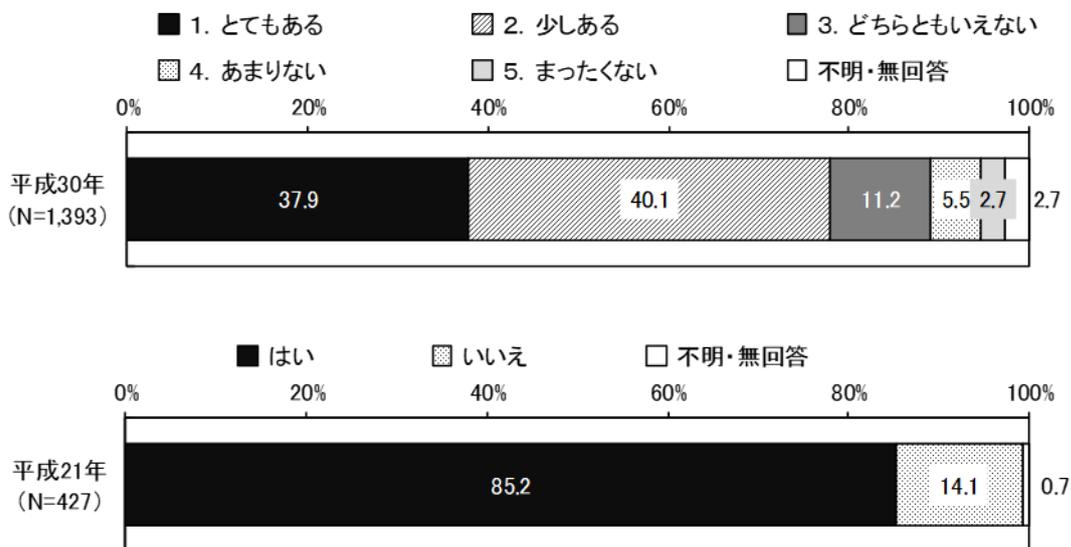
### ウ 意見表明の機会へ参加したいと思わない理由（問 46(3)）

「めんどくさいから」が3割と最も高く、次いで「自分の意見を言っても何も変わらないから」，「忙しいから」が多く挙げられています。



### エ 京都に対する愛着意識（問 47）

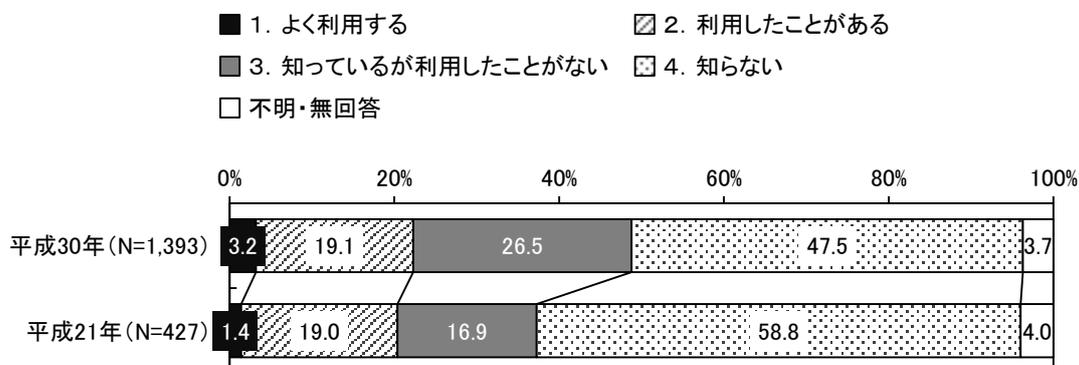
ある（「とてもある」と「少しある」の合計）が約8割，ない（「あまりない」と「まったくない」の合計）が約1割となっています。



## (12) 子ども・若者を対象とした施設について

### ア 京都市青少年活動センターの利用状況（問 49(1)）

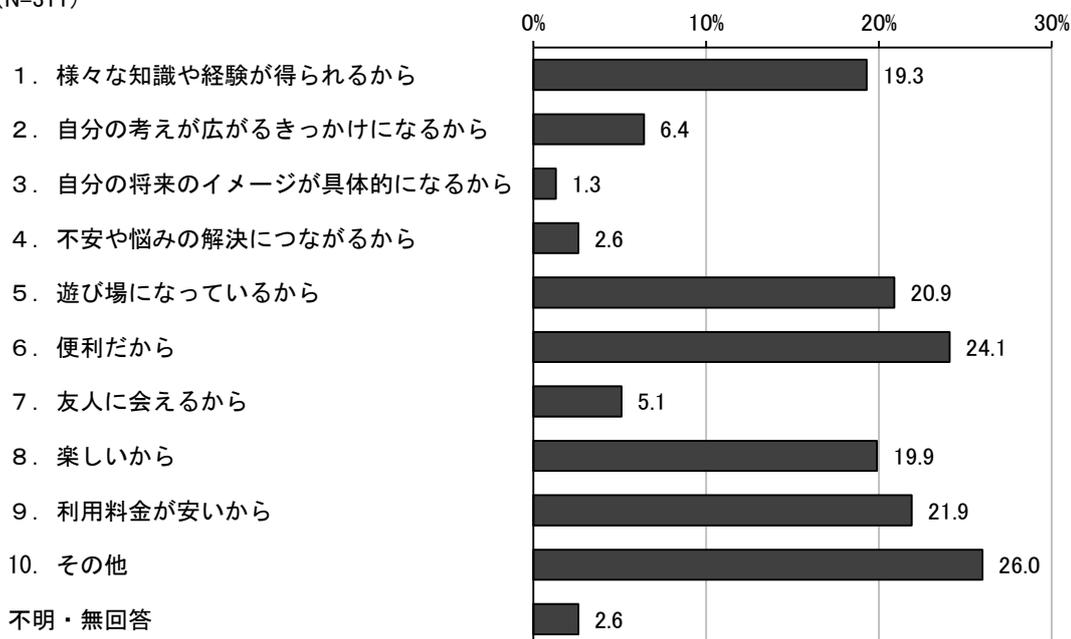
「知らない」が5割弱と最も高く、次いで「知っているが利用したことがない」が2割台半ば、「利用したことがある」が2割弱となっています。



### イ 京都市青少年活動センターの利用理由（問 49(2)）

「その他」以外では、「便利だから」が最も高く、次いで「利用料金が安いから」、「遊び場になっているから」の順で多く挙げられています。

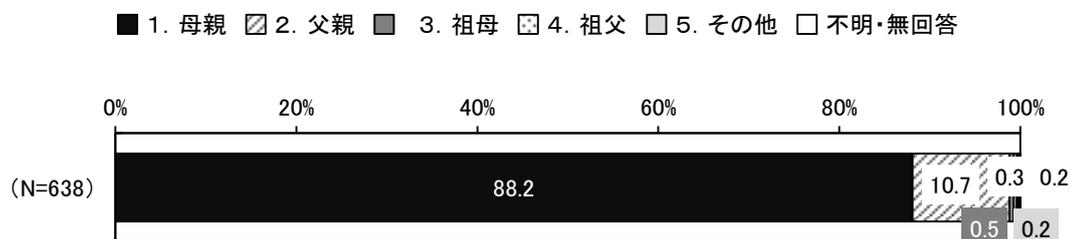
(N=311)



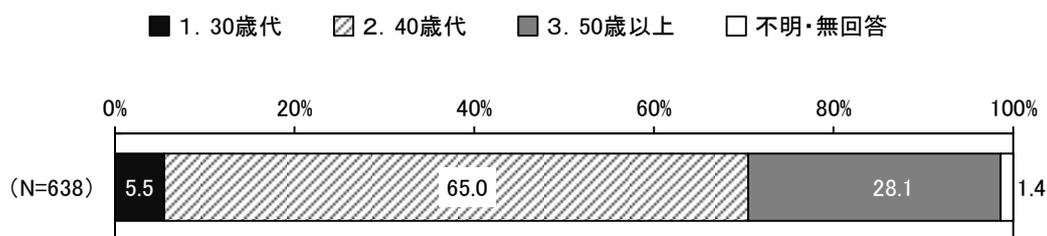
### 3 主な調査結果（保護者を対象とした調査の結果）

#### (1) 回答者について

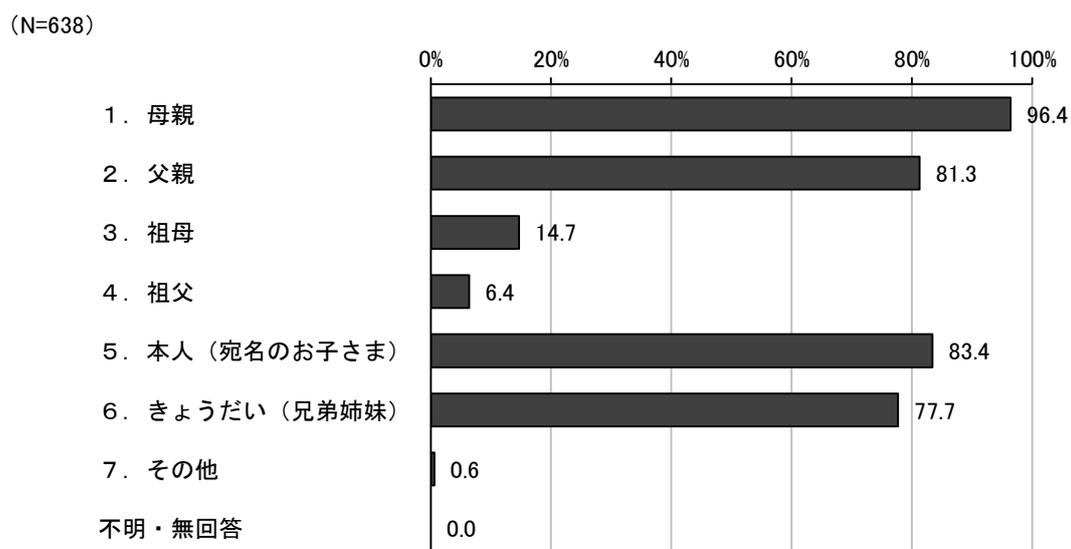
##### ア 回答者について（お子さまから見た関係）（問1）



##### イ 回答者の年齢（問2）

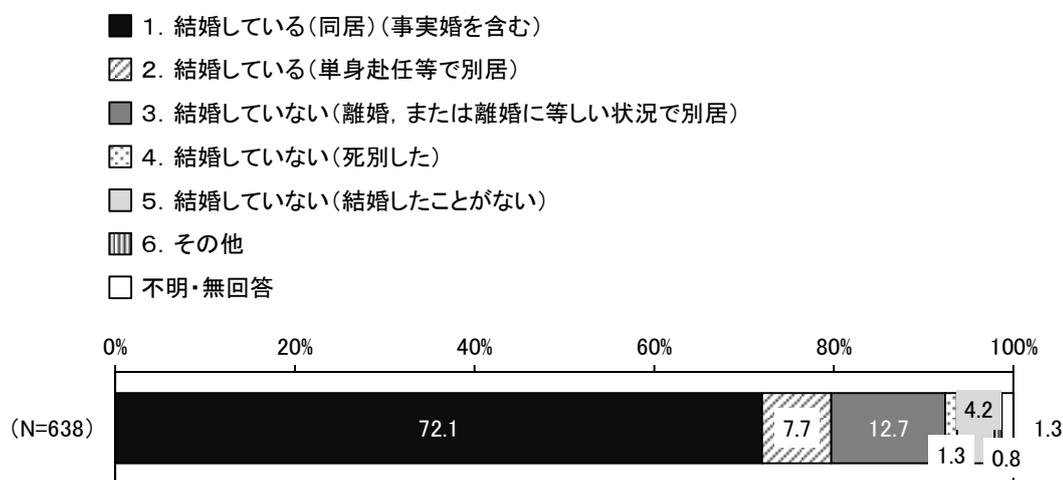


##### ウ 世帯構成（問3）



## エ お子さまの両親の婚姻状況（問4）

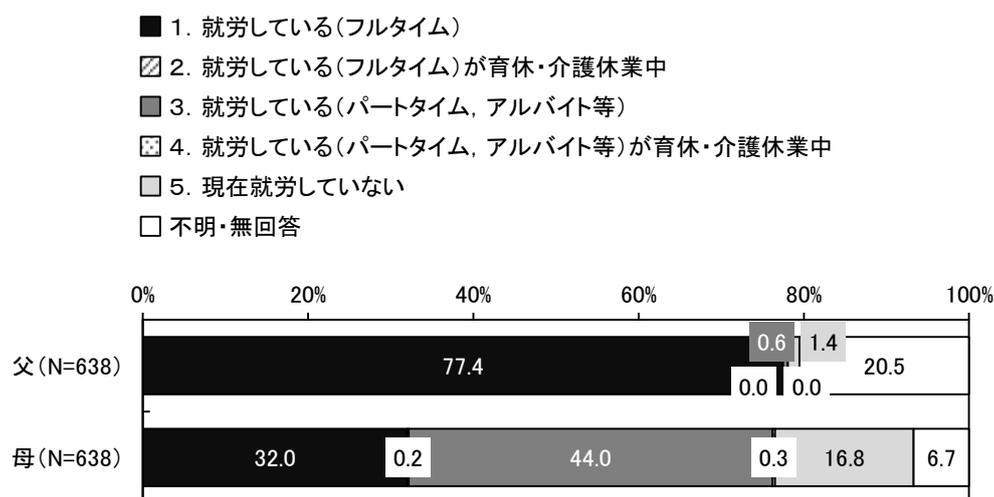
「結婚している（同居）（事実婚を含む）」が7割と最も高く、次いで「結婚していない（離婚，または離婚に等しい状況で別居）」，「結婚している（単身赴任等で別居）」の順で多く挙げられています。



## オ お子さまの父親，母親の現在の就労状況（問5）

父親では、「就労している（フルタイム）」が約8割と最も高くなっています。

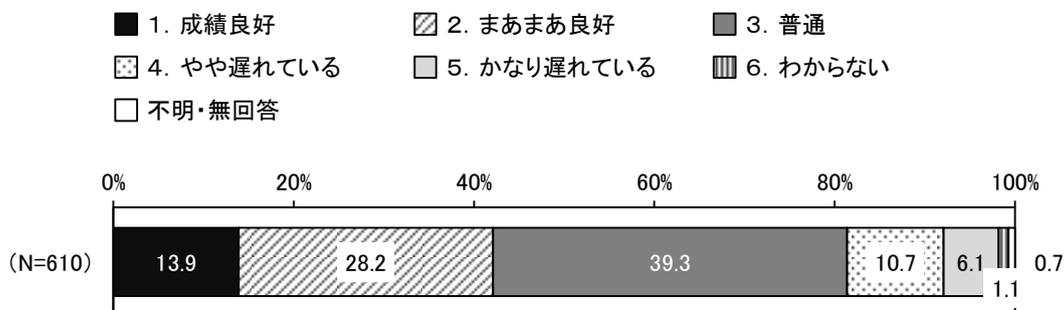
母親では、「就労している（パートタイム，アルバイト等）」が4割台半ばと最も高く、次いで「就労している（フルタイム）」，「現在就労していない」の順で多く挙げられています。



## (2) お子さまについて

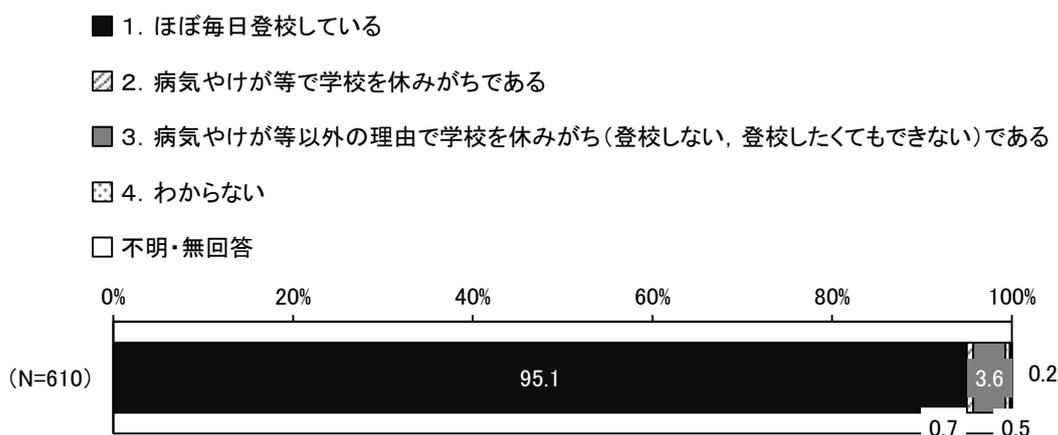
### ア 学校での勉強の成績について（問6）

「普通」が約4割と最も高く、次いで「まあまあ良好」，「成績良好」の順で多く挙げられています。



### イ 登校状況について（問7）

「ほぼ毎日登校している」が9割台半ばと最も高くなっています。



### ウ 成績と登校状況について（問6：問7）

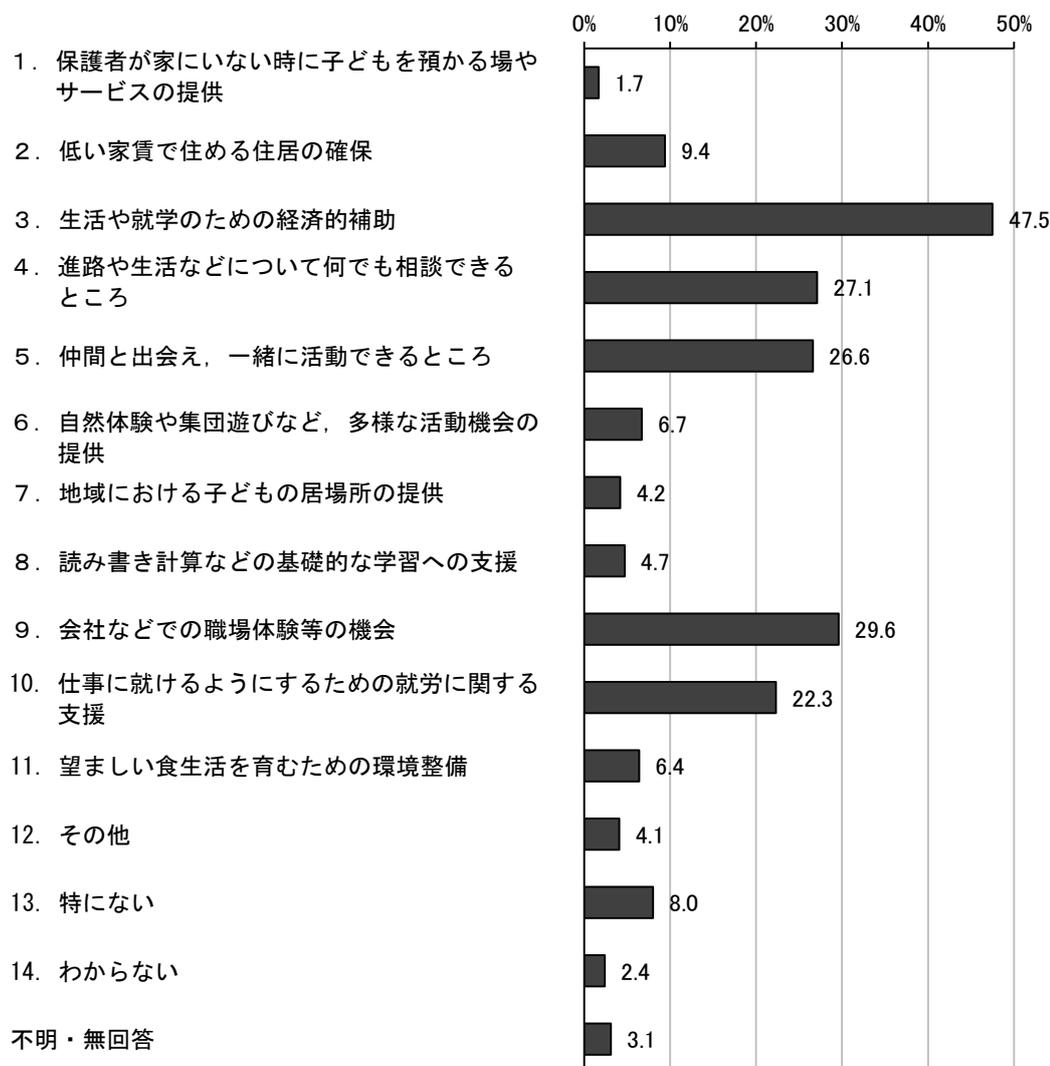
「ほぼ毎日登校している」，「病気やけが等で学校を休みがちである」では，「普通」の割合が最も高く，「病気やけが等以外の理由で学校を休みがちである」では，「かなり遅れている」の割合が最も高くなっています。

上段：件数 下段：%		合計	成績良好	まあまあ良好	普通	やや遅れている	かなり遅れている	わからない	不明・無回答
全体		610	85	172	240	65	37	7	4
		100.0	13.9	28.2	39.3	10.7	6.1	1.1	0.7
子どもの登校状況	ほぼ毎日登校している	580	84	171	234	60	26	1	4
		100.0	14.5	29.5	40.3	10.3	4.5	0.2	0.7
	病気やけが等で学校を休みがちである	4	0	0	2	1	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0
子どもの登校状況	病気やけが等以外の理由で学校を休みがち（登校しない，登校したくてもできない）である	22	1	1	3	2	10	5	0
		100.0	4.5	4.5	13.6	9.1	45.5	22.7	0.0
子どもの登校状況	わからない	3	0	0	1	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

## エ 充実を望む支援策について（問 10）

「生活や就学のための経済的補助」が約5割と最も高く、次いで「会社などでの職場体験等の機会」、「進路や生活などについて何でも相談できる場所」の順で多く挙げられています。

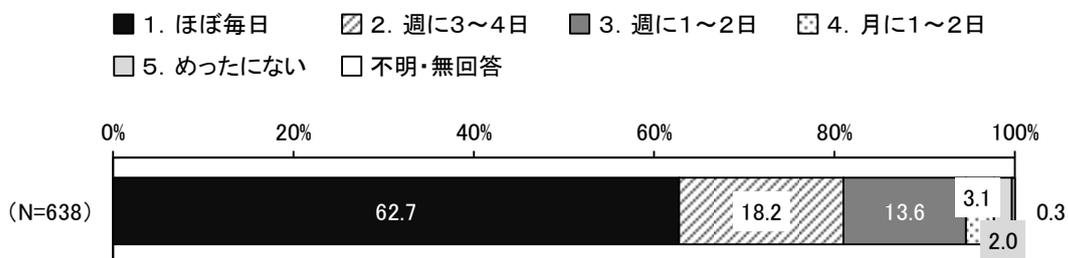
(N=638)



### (3) 家庭や暮らしの状況について

#### ア お子さまと学校や仕事などの生活状況について話をする機会（問 11）

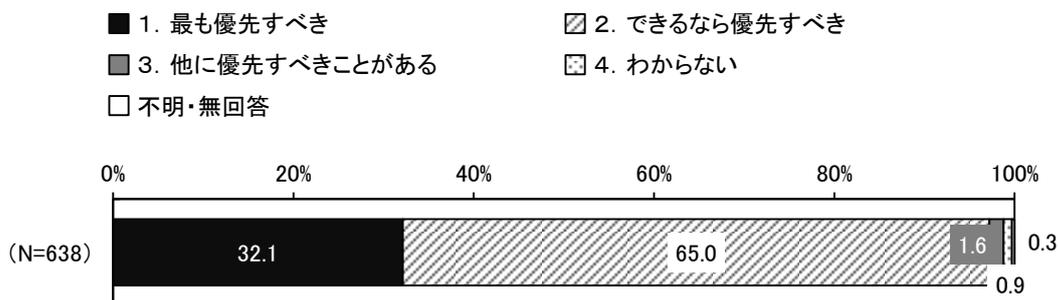
「ほぼ毎日」が6割と最も高く、次いで「週に3～4日」，「週に1～2日」の順で多く挙げられています。



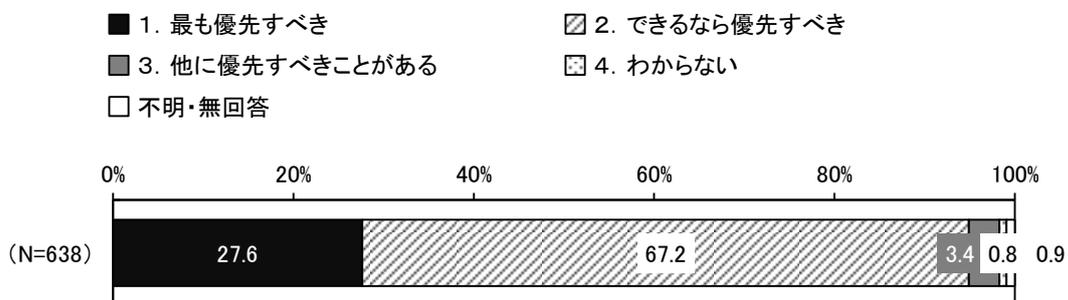
#### イ 子育てにかかる時間・お金の優先度（問 12）

時間・お金ともに，「最も優先すべき」と「できるなら優先すべき」の合計が，9割前後を占めている。

##### 《時間》



##### 《お金》

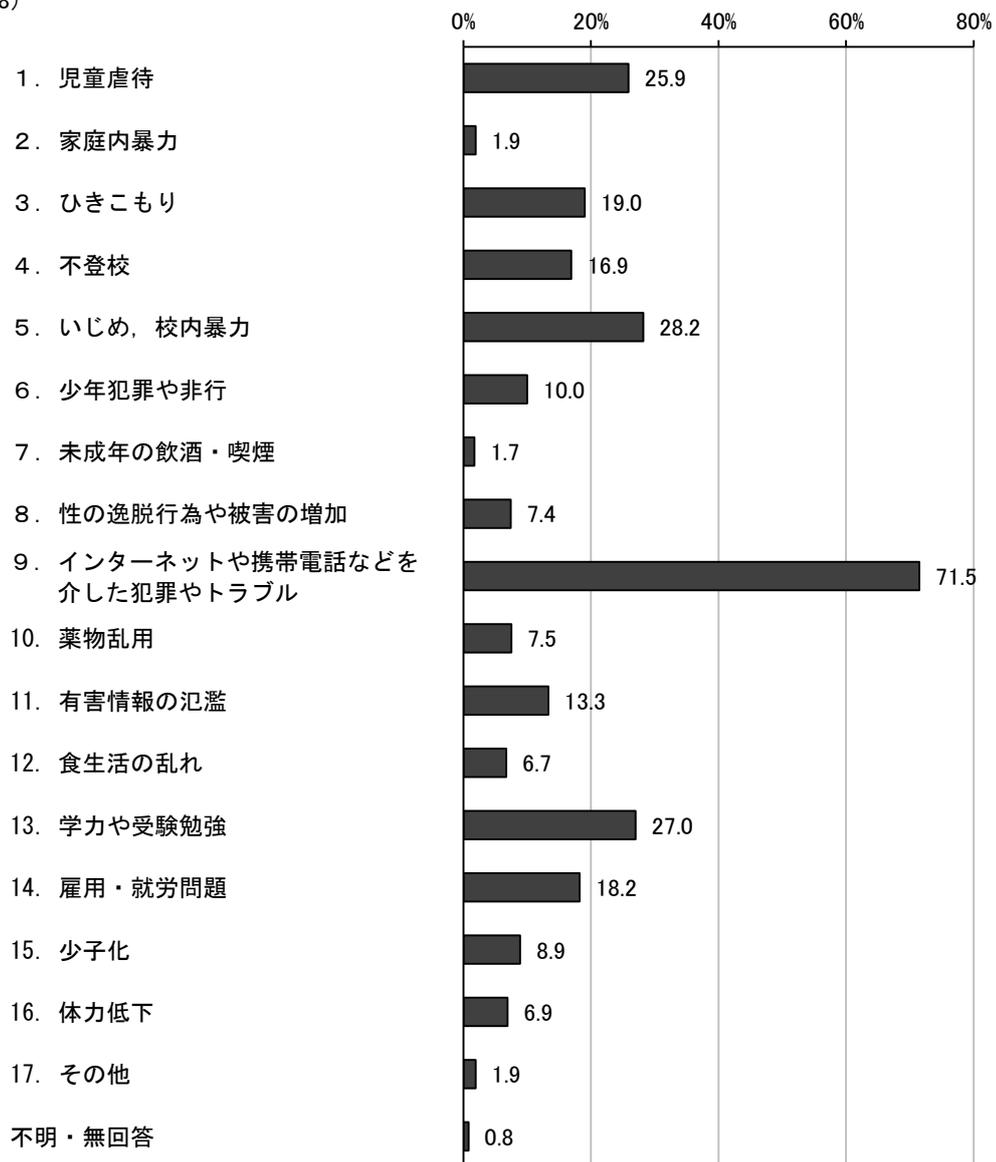


#### (4) 青少年施策全般について

##### ア 最近の青少年を取り巻く問題で関心のあること (問 15)

「インターネットや携帯電話などを介した犯罪やトラブル」が7割と最も高く、次いで「いじめ、校内暴力」，「学力や受験勉強」が多く挙げられています。

(N=638)



## イ 行政の取組や、社会制度のあり方について、特に望むこと（問16）

「子育て世帯に対する経済的支援について」が3割台半ばと最も高く、次いで「若者の就職・就労について」，「学校に関することについて」の順で多く挙げられています。

